



Sun Fire™ X2250 サーバー オペレーティングシステム インストールガイド

Solaris、Linux、Windows

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

部品番号 820-5102-10
2008 年 7 月、改訂 A

本書についてのご意見・ご感想は、<http://www.sun.com/hwdocs/feedback> のフォームを使って弊社までお送りください。

Copyright © 2008 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以降、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書で説明している製品に搭載された技術の知的所有権を所有しています。特に、これに限定されず、これらの知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されている 1 つまたは複数の米国特許、米国ならびに他の国における 1 つまたは複数の特許または申請中の特許が含まれます。およびその他の国における商標または登録商標です。

このディストリビューションには、サードパーティーの開発した素材が含まれている場合があります。

本製品の一部は、Berkeley BSD systems に由来し、University of California からライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. の米国ならびに他の国における登録商標で、X/Open Company, Ltd. が所有する独占的ライセンス供与権に基づいて、米国 Sun Microsystems 社にライセンス供与されています。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、Java、Blade、Sun Fire、Sun VTS は、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft は、Microsoft Corporation またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。Windows は、Microsoft Corporation またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。Intel は、Intel Corporation またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。Adobe のロゴは、Adobe Systems, Incorporated の登録商標です。

CPU の予備品または交換品の使用は、米国の輸出法に準拠して輸出された製品の CPU の修理または 1 対 1 の交換に限り許可されています。米国政府の許可を得ることなく、製品のアップグレード目的で CPU を使用することは、固く禁じられています。

本書は、「現状のまま」の形で提供され、法律により免責が認められない場合を除き、商品性、特定目的への適合性、第三者の権利の非侵害に関する暗黙の保証を含む、いかなる明示的および暗示的な保証も伴わないものとします。

Copyright © 2008 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, Etats-Unis. Tous droits réservés.

Sun Microsystems, Inc. détient les droits de propriété intellectuels relatifs à la technologie incorporée dans le produit qui est décrit dans ce document. En particulier, et ce sans limitation, ces droits de propriété intellectuelle peuvent inclure un ou plus des brevets américains listés à l'adresse <http://www.sun.com/patents> et un ou les brevets supplémentaires ou les applications de brevet en attente aux Etats - Unis et dans les autres pays.

Cette distribution peut comprendre des composants développés par des tierces parties.

Des parties de ce produit pourront être dérivées des systèmes Berkeley BSD licenciés par l'Université de Californie. UNIX est une marque déposée aux Etats-Unis et dans d'autres pays et licenciée exclusivement par X/Open Company, Ltd.

Sun, Sun Microsystems, le logo Sun, Java, Solaris, Sun Fire et Sun VTS sont des marques de fabrique ou des marques déposées de Sun Microsystems, Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres pays.

Microsoft sont est marques de fabrique ou des marques déposées de Microsoft Corporation ou de sa filiale aux Etats-Unis et dans d'autres pays. Windows est une marque de fabrique ou une marques déposée de Microsoft Corporation ou de sa filiale aux Etats-Unis et dans d'autres pays. Intel est une marque déposée ou marque déposée d'Intel Corporation ou ses filiales aux Etats-Unis et à d'autres pays. Le logo Adobe est une marque déposée de Adobe Systems, Incorporated.

L'utilisation de pieces detachées ou d'unités centrales de remplacement est limitée aux réparations ou a l'echange standard d'unités centrales pour les produits exportés, conformément a la legislation americaine en matiere d'exportation. Sauf autorisation par les autorités des Etats-Unis, l'utilisation d'unités centrales pour proceder a des mises a jour de produits est rigoureusement interdite.

LA DOCUMENTATION EST FOURNIE "EN L'ETAT" ET TOUTES AUTRES CONDITIONS, DECLARATIONS ET GARANTIES EXPRESSES OU TACITES SONT FORMELLEMENT EXCLUES, DANS LA MESURE AUTORISEE PAR LA LOI APPLICABLE, Y COMPRIS NOTAMMENT TOUTE GARANTIE IMPLICITE RELATIVE A LA QUALITE MARCHANDE, A L'APTITUDE A UNE UTILISATION PARTICULIERE OU A L'ABSENCE DE CONTREFACON.



リサイクル
してください



Adobe PostScript

目次

目次 i

はじめに v

1. オペレーティングシステムのインストールの概要 1
 - サポートされているオペレーティングシステム 2
 - 出荷時にインストールされているオペレーティングシステム 3
 - X2250 サーバーの診断 3
 - OS インストールの計画 4
 - サポートされているコンソールオプション 4
 - シリアルポート接続を使用するコンソール接続 4
 - VGA ポートを使用するコンソール接続 5
 - Sun ILOM リモートコンソール (リモート KVMS) を使用するコンソール接続 5
 - SSH を使用するコンソール接続 6
 - サポートされているインストールメディアオプション 6
 - サポートされているインストールターゲット 8
 - Linux または Windows オペレーティングシステムのインストール時に SIA を使用する 8

2. Solaris インストール 9

インストール要件 10

実行する作業のチェックリスト 12

JumpStart ネットワークインストールの使用による Solaris 10 インストール 13

- ▼ JumpStart ネットワークインストールを使用してインストールする 13

ローカルまたはリモート配布メディアからの Solaris 10 をインストール 14

- ▼ ローカルまたはリモート配布メディアから Solaris をインストールする 15

シリアル端末の使用による Solaris 10 のインストール 16

- ▼ シリアル端末を使用して Solaris をインストールする 16

システムデバイスドライバのインストール (Solaris インストール後) 18

- ▼ ローカルまたはリモートメディアからシステムデバイスドライバをインストールする 18

3. Linux インストール 21

インストール要件 22

実行する作業のチェックリスト 24

ローカルまたはリモートメディアを使用した RHEL4 または RHEL5 のインストール 25

- ▼ ローカルまたはリモートメディアを使用して RHEL4-U6 をインストールする 26
- ▼ ローカルまたはリモートメディアを使用して RHEL5-U1 をインストールする 30

PXE ネットワーク環境を使用した RHEL4 または RHEL5 のインストール 35

- ▼ PXE を使用して RHEL4-U6 または RHEL5-U1 をインストールする 36

ローカルまたはリモートメディアを使用した SLES10 のインストール 39

- ▼ ローカルまたはリモートメディアを使用して SLES10 をインストールする 40

PXE ネットワーク環境を使用した SLES10 のインストール 45

- ▼ AutoYaST を使用して SLES10 をインストールする 45

システムデバイスドライバのインストール (Linux のインストール後) 47

- ▼ ローカルまたはリモートメディアからシステムデバイスドライバをインストールする 48

4. Windows Server 2003 のインストール 49

インストール要件 50

実行する作業のチェックリスト 51

ハードウェア RAID の設定 (省略可) 52

ハードウェア RAID の要件 52

- ▼ BIOS で IDE RAID コントローラを設定する 52

- ▼ RAID ドライバをフロッピーディスクにコピーする 54

ローカルまたはリモートメディアを使用した Windows Sever 2003 のインストール 55

- ▼ ローカルまたはリモートメディアを使用して Windows Sever 2003 をインストールする 56

必須の Windows システムデバイスドライバのインストール (Windows インストール後) 58

- ▼ ローカルまたはリモートメディアを使用して必須のシステムドライバをインストールする 59

PXE ネットワーク環境を使用した Windows Server 2003 のインストール 59

RIS イメージへの Windows システムデバイスドライバの追加 60

- ▼ RIS イメージにドライバを追加する 61

- ▼ PXE を使用して Windows Server 2003 をインストールする 61

A. Sun ILOM リモートコンソール 67

Sun ILOM リモートコンソールの概要 67

インストール要件 68

ILOM の起動とリモート管理のための設定 68

- ▼ ILOM Web インタフェースに接続する 69

- ▼ Web インタフェースを使用して ILOM リモートコントロール設定を指定する 69

Sun ILOM リモートコンソールの起動とリモートサーバー管理の設定 71

- ▼ ILOM Web インタフェースを使用して Sun ILOM リモートコンソールを起動する 71
- ▼ 新規サーバーセッションを追加する 72
- ▼ デバイスリダイレクトを開始、停止、または再開する 72
- ▼ キーボードおよびマウスデバイスをリダイレクトする 73
- ▼ キーボードモードとキー送信オプションを制御する 74
- ▼ ストレージデバイスまたは ISO イメージをリダイレクトする 75
- ▼ Sun ILOM リモートコンソールを終了する 76

CD とフロッピーディスクのリダイレクト処理のシナリオ 77

B. 新規インストールの BIOS 設定 79

- ▼ 新規インストールの BIOS 設定の確認 79

はじめに

本書では、Solaris、Linux、または Windows オペレーティングシステムのインストールについて説明します。

本書は、技術者、システム管理者、承認サービスプロバイダ (ASP)、およびオペレーティングシステムのインストールについて十分な経験を持つユーザーを対象としています。

本書の構成

本書は、次の章で構成されています。

- **第 1 章**では、X2250 サーバーにオペレーティングシステムをインストールするための準備作業について説明します。
- **第 2 章**では、Solaris 10 オペレーティングシステムのインストール手順を説明します。
- **第 3 章**では、サポートされている Linux オペレーティングシステムのインストール手順を説明します。
- **第 4 章**では、Windows Server 2003 のインストール手順を説明します。
- **付録 A**では、Sun ILOM リモートコンソールの起動および設定方法を説明します。
- **付録 B**では、新規インストールのために BIOS 設定を指定する方法を説明します。

UNIX コマンドの使い方

基本的な UNIX[®] コマンドや、システムのシャットダウンや起動、デバイスの設定などの手順について詳しくは、次のドキュメントを参照してください。

- システム付属のハードウェア関連ドキュメント。
- Solaris[™] オペレーティングシステムのドキュメント。次の Web サイトからダウンロード可能です。

<http://docs.sun.com>

シェルプロンプト

シェル	プロンプト
C シェル	<i>machine-name%</i>
C シェルスーパーユーザー	<i>machine-name#</i>
Bourne シェルおよび Korn シェル	\$
Bourne シェルおよび Korn シェルスーパーユーザー	#

表記上の規則

字体*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、および画面上のコンピュータ出力を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力とは区別して示します。	% su Password:
AaBbCc123	書名、新しい用語、強調する語句、および変数を示します。変数の場合には、実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	『User's Guide (ユーザーズガイド)』の第 6 章を参照してください。 これらはクラスオプションと呼ばれます。これを行うには、スーパーユーザーである必要があります。 ファイルを削除するには、rm <ファイル名> と入力します。

* ご使用のブラウザの設定によっては、表示内容が多少異なる場合もあります。

関連ドキュメント

下の表に記載されている X2250 サーバーの関連ドキュメントは、次の Web サイトからダウンロードできます。

<http://docs.sun.com/app/docs/coll/x2250>

分類	タイトル	部品番号	形式	場所
ハードウェアの設置	Sun Fire X2250 サーバー設置マニュアル	820-5092	PDF版 印刷版	オンライン サーバーの出荷キットに含まれるオプション
サービス	Sun Fire X2250 Server Service Manual (Sun Fire X2250 サーバーサービスマニュアル)	820-4593	PDF版 HTML版	オンライン

分類	タイトル	部品番号	形式	場所
ご使用にあ たって	<i>Sun Fire X2250 サーバーご使 用にあたって</i>	820-5107	PDF版 HTML版	オンライン
ILOM	<i>Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド</i>	820-2698	PDF版 HTML版	オンライン
ILOM 補足ド キュメント	<i>Sun Fire X2250 サーバー用 Sun Integrated Lights Out Manager 補足ドキュメント</i>	820-5112	PDF版 HTML版	オンライン

これらのドキュメントの一部については、上記に記載された Web サイトでフランス語、ドイツ語、簡体字中国語、繁体字中国語、韓国語、日本語の翻訳版が入手可能です。英語版は頻繁に改訂されており、翻訳版よりも最新の情報が記載されています。

Sun 関連ドキュメント、サポート、ト レーニング

Sun の部門	URL
ドキュメント	http://docs.sun.com
サポート	http://www.sun.com/support/
トレーニング	http://www.sun.com/training/

サードパーティーの Web サイト

Sun 社は、本書で挙げているサードパーティーの Web サイトの利用について責任を負いません。また、当該サイトまたはリソースから入手可能なコンテンツや広告、製品またはその他の素材を推奨したり、責任あるいは法的義務を負うものではありません。さらに、他社の Web サイトやリソースに掲載されているコンテンツ、製品、サービスなどの使用や依存により生じた実際の、または疑わしい損害や損失についても責任を負いません。

コメントをお寄せください

Sun 社は、ドキュメントの改善を常に心がけており、皆様のコメントや提案を歓迎いたします。コメントは次のサイトを通してお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

フィードバックには、本書のタイトルと部品番号を記載してください。

Sun Fire X2250 サーバーオペレーティングシステムインストールガイド、部品番号
820-5102-10

オペレーティングシステムのインストールの概要

この章では、Sun Fire X2250 サーバーへの新規オペレーティングシステムのインストールを計画するときに考慮する必要がある事項の概要について説明します。

この章では、次の項目について説明します。

- 「サポートされているオペレーティングシステム」 (2 ページ)
- 「出荷時にインストールされているオペレーティングシステム」 (3 ページ)
- 「X2250 サーバーの診断」 (3 ページ)
- 「OS インストールの計画」 (4 ページ)
 - 「サポートされているコンソールオプション」 (4 ページ)
 - 「サポートされているインストールメディアオプション」 (6 ページ)
 - 「サポートされているインストールターゲット」 (8 ページ)
 - 「Linux または Windows オペレーティングシステムのインストール時に SIA を使用する」 (8 ページ)

サポートされているオペレーティングシステム

X2250 サーバーでサポートされる最低限度のオペレーティングシステムエディションについては、表 1-1 を参照してください。

表 1-1 サポートされている最低限度のオペレーティングシステム

OS	サポートされている OS エディション
Solaris	<ul style="list-style-type: none">• Solaris 10 5/08 以降
Windows	<ul style="list-style-type: none">• Microsoft Windows Server 2003 Enterprise Edition (R2 with SP2、または SP2) (32 ビットおよび 64 ビット版)• Microsoft Windows Server 2003 Standard Edition (R2 with SP2、または SP2) (32 ビットおよび 64 ビット版)
Linux	<ul style="list-style-type: none">• Red Hat Enterprise Linux Advanced Server v.4 Update 6 以降 (32 ビットおよび 64 ビット版)• Red Hat Enterprise Linux Server v.5 Update 1 以降 (32 ビットおよび 64 ビット版)• SUSE Linux Enterprise System 10 SP1 以降 (32 ビットおよび 64 ビット版)

X2250 サーバーでサポートまたは認定されている最新のオペレーティングシステムの一覧は次のサイトで参照してください。この一覧は随時更新されます。

<http://www.sun.com/servers/x64/X2250/os.jsp>

また、次の Sun のサイトで Red Hat、SUSE、または Windows オペレーティングシステムソフトウェアのサポートされているエディションを購入することもできます。

<http://www.sun.com/software>

出荷時にインストールされているオペレーティングシステム

オペレーティングシステムソフトウェアをインストール済みの X2250 サーバー用ハードディスクドライブ (HDD) を注文することもできます。このハードウェアには、最新のオペレーティングシステムとデバイスドライバなど、オペレーティングシステムのソフトウェアがすべてインストールされています。ただし、オペレーティングシステムを使用する前にいくつかのセットアップ作業を行う必要があります。これらの初期セットアップ作業については、『Sun Fire X2250 サーバー設置マニュアル』(820-5092) を参照してください。

X2250 サーバーの診断

各 X2250 サーバーには、DOS ベースの Pc-Check ユーティリティが付属しています。この診断プログラムには、*Sun Fire X2250* サーバーのツールとドライバの CD からアクセスできます。Pc-Check 診断プログラムは、すべてのマザーボードコンポーネント、ポート、およびスロットを検出し、テストします。メモリーエラーやハードディスクエラーなど、ハードウェア関連のエラーメッセージが表示された場合は、次のいずれかの Pc-Check 診断テストを実行できます。

- X2250 サーバー診断 Burn-in テスト
- 特定のハードウェアコンポーネントの詳細診断テスト

これらのテストの詳細、および Pc-Check 診断プログラムへのアクセスを実行方法については、『*Sun Fire X2250 Server Service Manual* (Sun Fire X2250 サーバーサービスマニュアル)』(820-4593) の「Performing Diagnostics (診断の実行)」の章を参照してください。

OS インストールの計画

Sun Fire X2250 サーバーへのオペレーティングシステム (OS) のインストールを計画するときは、インストールを開始する前に次のトピックを参照してください。

- 「サポートされているコンソールオプション」 (4 ページ)
- 「サポートされているインストールメディアオプション」 (6 ページ)
- 「サポートされているインストールターゲット」 (8 ページ)
- 「新規インストールの BIOS 設定」 (79 ページ)
- 「Linux または Windows オペレーティングシステムのインストール時に SIA を使用する」 (8 ページ)

オペレーティングシステムをインストールする前にソフトウェア RAID を実行する場合は、『Sun Fire X2250 サーバー設置マニュアル』(820-5092) のソフトウェア RAID の設定に関するセクションを参照してください。

サポートされているコンソールオプション

Sun Fire X2250 サーバーに OS をインストールするときは、次のコンソールオプションを使用して、インストールの入出力をキャプチャできます。

- 「シリアルポート接続を使用するコンソール接続」 (4 ページ)
- 「VGA ポートを使用するコンソール接続」 (5 ページ)
- 「Sun ILOM リモートコンソール (リモート KVM) を使用するコンソール接続」 (5 ページ)
- 「SSH を使用するコンソール接続」 (6 ページ)

シリアルポート接続を使用するコンソール接続

Sun Fire X2250 サーバーのシリアルポートを経由して OS インストールプログラムへのコンソールアクセスを確立できます。OS インストールを実行するときにこのオプションを使用する場合は、次の作業を行う必要があります。

- シリアルコンソールを X2250 サーバーのシリアルポートに物理的に接続します。

注 - シリアルコンソールの例には、シリアルポートに接続されたダム端末 (VT100 など) やラップトップがあります。

- 管理者として ILOM (Intergrated Lights Out Manager) にログインします。事前設定の ILOM 管理者アカウント (ユーザー名: root、パスワード: changeme) を使用できます。
- オペレーティングシステムインストールのテキスト入出力をキャプチャできる端末ウィンドウなど、ローカルクライアントインタフェースを使用します。
- Sun Fire X2250 サーバー SP (サービスプロセッサ) 上で ILOM コマンドラインインタフェース (CLI) コンソールを起動します。たとえば、次のように入力します。

```
start /SP/console
```

VGA ポートを使用するコンソール接続

Sun Fire X2250 サーバーの VGA ポートを経由して OS インストールプログラムへのコンソールアクセスを確立できます。このコンソールオプションを使用して OS インストールを実行する場合は、次の条件を満たす必要があります。

- コンソールを X2250 サーバーの VGA アナログポートに物理的に接続する。
- キーボードとマウスを X2250 サーバーの USB コネクタに物理的に接続する。

Sun ILOM リモートコンソール (リモート KVMS) を使用するコンソール接続

Sun ILOM リモートコンソールは、ILOM Web インタフェースから起動される Java™ アプリケーションです。このコンソールオプションの場合、テキスト出力デバイスは Sun ILOM リモートコンソールアプリケーションを実行しているリモートコンソールです。入力デバイスは、リモートキーボードおよびマウスです。

Sun ILOM リモートコンソールを使用して OS をインストールする場合は、次の条件を満たす必要があります。

- X2250 サーバーへのネットワーク接続を確立している。詳細は、『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』(820-2698) を参照してください。
- X2250 サーバー SP の IP アドレスを用意している。
- 管理者として ILOM にログインする。事前設定の ILOM 管理者アカウント (ユーザー名: root、パスワード: changeme) を使用できます。事前設定の ILOM 管理者アカウントについては、『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』(820-2698) を参照してください。
- Sun ILOM リモートコンソール (リモートコンソールで実行される Java アプリケーション) を起動して、オペレーティングシステムインストールの入出力をキャプチャする。

リモート KVMS 用の ILOM の設定および Sun ILOM リモートコンソールの起動については、[付録 A](#) を参照してください。

SSH を使用するコンソール接続

X2250 サーバー SP への Secure Shell (SSH) 接続を使用してコンソールアクセスを確立できます。このコンソールオプションは、SSH 接続の接続先以外は、「シリアルポート接続を使用するコンソール接続」と同様です。

このコンソールオプションを使用して OS インストールを実行する場合は、次の条件を満たす必要があります。

- X2250 サーバー SP へのネットワーク接続を確立している。詳細は、『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』(820-2698)を参照してください。
- X2250 サーバー SP の IP アドレスを用意している。
- 管理者として ILOM にログインする。事前設定の ILOM 管理者アカウント (ユーザー名: root、パスワード: changeme) を使用できます。
- Secure Shell 接続を確立し、オペレーティングシステムインストールの入出力をキャプチャするリモートクライアントを用意する。
- ILOM CLI コンソールサーバー SP を起動する。たとえば、次のように入力します。

```
start /sp/console
```

サポートされているインストールメディアオプション

オペレーティングシステムを X2250 サーバーにインストールするときは、ローカルまたはリモートインストールメディアを使用できます。実行するインストールの種類に応じて、使用するメディアが決まります。

- ローカルメディア。ローカルメディアを使用してインストールを実行する場合は、オペレーティングシステムの配布 CD/DVD を使用してインストールを実行する必要があります。

この方法を使用するには、X2250 サーバーにローカル CD/DVD ドライブを用意しているか、CD/DVD ドライブを X2250 サーバーの USB コネクタに物理的に接続する必要があります。

- リモートメディア。リモートメディアを使用してインストールを実行する場合は、次のいずれかのインストールメディアを使用できます。
 - OS 配布 CD または DVD
 - お客様が用意する ISO CD/DVD イメージ
 - Windows RIS イメージ、Solaris JumpStart™ イメージ、RHEL KickStart イメージ、または SLES AutoYaST イメージなど、お客様が用意する自動インストールイメージ

インストールプロセス (RIS、JumpStart、KickStart、または AutoYaST による) を自動化することで、複数のシステムで初めてオペレーティングシステムのインストールを設定する場合の一部またはほとんどの手動の作業が不要になります。代わりに、適切に設定されたイメージをインストールのターゲットインストールサーバーに適用します。

リモートメディアによる方法では、サーバーの近くで操作する必要はありません。仮想ドライブまたは PXE クライアントを使用して、ネットワーク経由でインストールメディアをブートできます。

- 仮想ドライブを使用してインストールメディアをブートする。仮想ドライブは、エミュレートされているドライブを指します。これには、ネットワーク共有上にあるリモート CD/DVD ドライブや ISO イメージがあります。仮想ドライブを使用してインストールメディアをブートする場合は、仮想ドライブを一時一次起動デバイスとして BIOS で指定する必要があります。
- PXE クライアントを使用してインストールメディアをブートする。PXE クライアントとは、PXE (Intel Preboot Execution Environment) 経由でインストールメディアをブートするコンピュータを指します。インストールメディアは、X2250 サーバーで実装されている PXE 仕様を使用します。特に、PXE 技術により、DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) を使用してネットワーク経由でオペレーティングシステムをブートできるようになります。

リモートメディアを使用してオペレーティングシステムをインストールするには、ハードウェアおよびソフトウェアに関する次の要件を満たす必要があります。

- X2250 サーバーへのネットワーク接続が確立されていること。Sun システムのネットワークパラメータの設定方法の詳細は、『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』(820-2698) を参照してください。
- 1 つ以上の X2250 サーバーをインストーラターゲットとして指定する、適切に設定されたネットワークインストールサーバー。
- 自動インストールイメージ (RIS、JumpStart、KickStart、または AutoYaST など) を経由してネットワークインストールプロセスを自動化したい場合は、確立された自動サーバー環境も必要です。自動インストールイメージを正しく設定および展開する方法は、本書の範囲に含まれていません。詳細は、ベンダーのオペレーティングシステムのドキュメントの自動インストールイメージの設定と展開に関するセクションを参照してください。

サポートされているインストールターゲット

X2250 サーバーの初期リリースの場合、すべてのオペレーティングシステムを X2250 サーバーのローカルハードドライブにインストールする必要があります。

Linux または Windows オペレーティングシステムのインストール時に SIA を使用する

本書では、X2250 サーバーに Linux または Windows オペレーティングシステムをインストールする手順を説明していますが、それ以外に、Sun Installation Assistant (SIA) ユーティリティを使用して X2250 サーバーに Linux または Windows オペレーティングシステムをインストールすることもできます。

Sun Installation Assistant は、サポートされている Linux および Microsoft Windows オペレーティングシステムのインストールに役立つツールです。SIA を使用すると、SIA メディアをブートしてプロンプトに従うだけで OS、適切なドライバ、および必要に応じて追加のシステムソフトウェアをインストールできます。

SIA によって、OS のインストール処理が自動的に行われるわけではありません。ベンダー指定の OS インストール手順に従う必要がありますが、システムハードウェアの詳細を調べて、Sun がサポートする最新のデバイスドライバを検索し、ダウンロードする必要がないばかりでなく、別途ドライバ CD を作成する必要がありません。これらの作業は SIA が実行します。

SIA を使用して X2250 サーバーに Linux または Windows オペレーティングシステムをインストールする手順の詳細は、『*Sun Installation Assistant for Windows and Linux User's Guide* (Windows および Linux 用 Sun Installation Assistant ユーザーズガイド)』(820-3357) を参照してください。

Solaris インストール

この章では、ネットワークやメディアから Solaris 10 オペレーティングシステムをインストールする手順について説明します。この章の対象者は、x86 プラットフォームで Solaris OS を使用方法を十分に理解している、経験豊富なシステム管理者です。

注 – サーバーにプリインストールされている Solaris 10 オペレーティングシステムを設定する場合は、『Sun Fire X2250 サーバー設置マニュアル』を参照してください。

この章では、次の項目について説明します。

- 「インストール要件」(10 ページ)
- 「JumpStart ネットワークインストールの使用による Solaris 10 インストール」(13 ページ)
- 「ローカルまたはリモート配布メディアからの Solaris 10 をインストール」(14 ページ)
- 「シリアル端末の使用による Solaris 10 のインストール」(16 ページ)
- 「システムデバイスドライバのインストール (Solaris インストール後)」(18 ページ)

インストール要件

Solaris 10 のインストールを開始する前に、次の要件が満たされていることを確認する必要があります。

- 適切なフォーマットの Solaris 10 配布ファイル。Solaris をインストールする方法によっては、Solaris 配布 CD/DVD、ISO イメージ、または JumpStart イメージをすぐに利用できる状態にしておく必要があります。
- サポートされている最低限度の Solaris OS。X2250 サーバーでサポートされている、最低限度の Solaris オペレーティングシステムは次のとおりです。

- Solaris 10 5/08 以降

Solaris 10 のメディアは、次のサイトでダウンロードまたは注文できます。

<http://www.sun.com/software/solaris/get.jsp>

- インストールへのコンソールアクセスが確立されている。インストールの入出力を表示する、サポートされているコンソールオプションを選択しておく必要があります。詳細は、「サポートされているコンソールオプション」(4 ページ) を参照してください。
- BIOS で起動デバイスが正しく設定されている。BIOS で設定されている固定起動デバイスがインストール起動デバイスとは異なる場合は、Solaris 10 インストール中に F8 キーを押して一時的に別の起動デバイスを選択できます。
- Solaris OS のインストールに必要な情報を収集する。

Solaris 10 5/08 をインストールする場合は、一般的な計画情報について次のサイトを参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/doc/820-4038>

システムがネットワークに接続されていない場合は、インストール先システムのホスト名、およびシステムで使用する予定の言語と地域を知っておく必要があります。

システムがネットワークに接続されている場合は、チェックリストを使用して次の情報を収集します。

- インストール先システムのホスト名
- システムで使用する予定の言語と地域
- サーバーの IP アドレス
- サブネットマスク
- ネームサービスの種類 (DNS、NIS、NIS+ など)
- ゲートウェイの IP アドレス
- ドメインネーム
- ネームサーバーのホスト名
- ネームサーバーの IP アドレス
- ルートパスワード

Solaris OS をネットワーク経由でインストールする場合は、Solaris OS をインストールする前に、PXE ベースのネットワークインストールをセットアップする必要があります。

PXE ベースのネットワークインストールのための設定を行うには、次の Web サイトにある『Solaris 10 インストールガイド (ネットワークインストール)』の手順に従ってください。

<http://docs.sun.com/app/docs/doc/820-4556>

- **Solaris 10 5/08 関連ドキュメント。**この章では、X2250 サーバーで Solaris 10 インストールプログラムをブートする手順を紹介します。その他の詳細については、次の Solaris 10 5/08 ドキュメントを参照してください。
 - Solaris 10 5/08 ご使用にあたって
<http://docs.sun.com/app/docs/doc/820-4532>
 - Solaris 10 5/08 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)
<http://docs.sun.com/app/docs/doc/820-4564?l=ja>
 - Solaris 10 5/08 インストールガイド (基本編)
<http://docs.sun.com/app/docs/doc/820-4523?l=ja>
 - Solaris 10 5/08 インストールガイド (ネットワークインストール)
<http://docs.sun.com/app/docs/doc/820-4556>
 - Solaris 10 5/08 インストールガイド (カスタム JumpStart/上級編)
<http://docs.sun.com/app/docs/doc/820-4540?l=ja>
- 『Sun Fire X2250 サーバーご使用にあたって』をよく読む。Solaris インストールや重要なパッチに関する最新の情報については、『ご使用にあたって』をよくお読みください。

実行する作業のチェックリスト

次の作業は、記載された順に行う必要があります。すべての作業が必須というわけではありません。

表 2-1 Solaris インストールのチェックリスト

手順	必須または省略可	作業
1	必須	インストール環境を確立します。詳細は、次を参照してください。 <ul style="list-style-type: none">• 「サポートされているコンソールオプション」(4 ページ)• 「サポートされているインストールメディアオプション」(6 ページ)
2	省略可	BIOS セットアップユーティリティで最適なデフォルト設定値を設定します。詳細は、「新規インストールの BIOS 設定」(79 ページ)を参照してください。
3	必須	X2250 サーバーに付属している Sun Fire X2250 ツールとドライバの CD を用意するか、次のサイトから必須のシステムデバイスドライバをダウンロードします。 http://www.sun.com/servers/x64/X2250/downloads.jsp
4	必須	Solaris 10 インストールプログラムをブートして、オペレーティングシステムのインストールを開始します。詳細は、次を参照してください。 <ul style="list-style-type: none">• 「JumpStart ネットワークインストールの使用による Solaris 10 インストール」(13 ページ)• 「ローカルまたはリモート配布メディアからの Solaris 10 をインストール」(14 ページ)• 「シリアル端末の使用による Solaris 10 のインストール」(16 ページ)
5	必須	Solaris 10 のインストールに必要なシステムデバイスドライバをインストールします。詳細は、次を参照してください。 <ul style="list-style-type: none">• 「システムデバイスドライバのインストール (Solaris インストール後)」(18 ページ)

JumpStart ネットワークインストールの使用による Solaris 10 インストール

このセクションでは、JumpStart イメージを使用してネットワーク経由で Solaris 10 OS をインストールする手順の概要について説明します。

ネットワークインストールの詳細は、次のサイトを参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/doc/820-4556>

カスタム JumpStart ネットワークインストールの詳細は、次のサイトを参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/doc/820-4042>

インストールサーバーは、CD/DVD ドライブを搭載していて、サイトのネットワークおよびネームサービスの一部である必要があります。ネームサービスを使用する場合、サーバーが NIS、NIS+、DNS、または LDAP などのネームサービスをすでに使用している必要があります。ネームサービスを使用しない場合、サイトのポリシーに従ってこのサーバーの情報を配信してください。

▼ JumpStart ネットワークインストールを使用してインストールする

1. インストールサーバーとするシステムで、**root** (スーパーユーザー) としてログインします。
2. Solaris 10 のメディアをサーバーの CD/DVD ドライブに挿入します。
3. 端末ウィンドウを開きます。

端末ウィンドウにシステムプロンプトが表示されたら、この手順で紹介されているコマンドを入力します。

4. CD イメージ用のディレクトリを作成します。次のように入力します。

```
# mkdir -p install_dir_path
```

install_dir_path は、CD イメージをコピーするディレクトリです。

5. マウントしたディスクの **Tools** ディレクトリに移動します。次のように入力します。

```
# cd /cdrom/cdrom0/Solaris_10/Tools
```

6. ドライブにあるイメージをインストールサーバーのハードディスクにコピーします。次のように入力します。

```
# ./setup_install_server install_dir_path
```

`install_dir_path` は、CD イメージをコピーするディレクトリです。

注 - `setup_install_server` コマンドを実行すると、Solaris 10 ソフトウェアディスクイメージ用に十分なディスク容量があるかどうかが表示されます。使用できるディスク容量を確認するには、`df -k1` コマンドを使用します。

7. ルートディレクトリ (/) に移動します。次のコマンドを入力します。

```
# cd /
```

8. Solaris 10 メディアを取り出します。

9. 次のセクションの指示に従って作業を続けます。

- 「ローカルまたはリモート配布メディアからの Solaris 10 をインストール」 (14 ページ)

または

- 「シリアル端末の使用による Solaris 10 のインストール」 (16 ページ)

ローカルまたはリモート配布メディアからの Solaris 10 をインストール

次の手順では、ローカルまたはリモートメディア (CD/DVD 配布メディア、ISO CD イメージ、または JumpStart イメージ) から Solaris 10 インストールメディアからブートするときの初期手順について説明します。Solaris OS を X2250 サーバーにインストールするには、ここで説明する手順および『Solaris 10 5/08 インストールガイド (基本編)』(820-4040) に記載されている x86 プラットフォームに関する手順に従ってください。

ここで説明するインストール方法では、ローカルまたはリモート CD/DVD ドライブを使用するとき、サーバー出力をローカルコンソールまたは Sun ILOM リモートコンソールに送ります。Sun ILOM リモートコンソールでストレージデバイスをリダイレクトする方法の詳細は、[付録 A](#) を参照してください。

前提条件

- 「インストール要件」(10 ページ) に示されている要件を確認し、それらを満たしていることを確認します。

▼ ローカルまたはリモート配布メディアから Solaris をインストールする

1. 次のいずれかの手順を実行します。
 - 配布 CD/DVDの場合: Solaris 10 配布メディア (CD 1 または DVD) をローカル CD/DVD ドライブに挿入します。
 - ISO CD イメージまたは JumpStart イメージの場合: Sun ILOM リモートコンソールの「Device (デバイス)」メニューで、「CD-ROM Image (CD-ROM イメージ)」イメージを選択し、Solaris 10 ISO CD イメージまたは Solaris 10 JumpStart イメージの場所を指定します。
2. X2250 サーバーをリセットします。たとえば、次のリセット方法があります。
 - ILOM Web インタフェースの「Remote Power Control (リモート電源制御)」タブで「Reset (リセット)」を選択します。
 - ローカルサーバーで、サーバーの前面パネルの電源ボタンを (約 1 秒間) 押してサーバーをオフにし、もう一度電源ボタンを押してオンにします。
 - サーバー SP の ILOM CLI で、「reset /SYS」と入力します。
BIOS 画面が表示されます。
3. BIOS の電源投入時の自己診断テスト画面で、F8 キーを押して、Solaris インストールの一時的な起動デバイスを指定します。
「Select Boot Device (起動デバイスの選択)」メニューが表示されます。
4. 「Select Boot Device (起動デバイスの選択)」メニューで、一次起動デバイスとしてローカル、外部、または仮想 CD/DVD デバイスを選択し、Enter キーを押します。
 - Sun ILOM リモートコンソールからインストールを実行するときは、仮想 CD/DVD デバイスを一時的な起動デバイスとして設定する必要があります。Sun ILOM リモートコンソールでストレージデバイスをリダイレクトする方法の詳細は、付録 A を参照してください。
 - ローカル DVD ドライブからインストールを実行するときは、ローカル DVD デバイスを一次起動デバイスとして設定する必要があります。ローカル DVD デバイスは、デフォルトで一次起動デバイスに設定されています。
 - 外部 CD/DVD デバイスからインストールを実行するときは、外部 CD/DVD 起動デバイスを一時的な起動デバイスとして設定する必要があります。
5. 通常の Solaris インストールを続行します。詳細は、次を参照してください。
 - 『Solaris 10 5/08 インストールガイド (ネットワークインストール)』 (<http://docs.sun.com/app/docs/doc/820-4556>) の第 4 章、「x86: PXE を使用したネットワーク経由のブートとインストールの概要」。

シリアル端末の使用による Solaris 10 のインストール

インストール出力をシリアル端末に表示する場合は、次の手順に従います。ここで説明する手順は、インストール出力のみに適用されます。

前提条件

- シリアル端末。シリアル端末には、VT100、端末エミュレータを実行する PC、または端末サーバーを使用できます。
- シリアル端末のプロパティを設定します。接続したコンソールのシリアルプロパティは、次のデフォルトのシリアルポート設定と一致する必要があります。
 - 9600 ボー
 - 8N1 (データビット 8、パリティなし、ストップビット 1)
 - フローコントロール無効
- インストールサーバーとして使用するシステムは、CD/DVD ドライブを搭載していて、サイトのネットワークおよびネームサービスの一部である必要があります。ネームサービスを使用する場合、システムが NIS、NIS+、DNS、または LDAP などのネームサービスをすでに使用している必要があります。

▼ シリアル端末を使用して Solaris をインストールする

1. シリアル端末を X2250 サーバーのシリアルポートに接続します。
2. シリアル端末で、次のいずれかの操作を実行して端末セッションを開始します。
 - **Solaris が動作しているシリアルコンソールの場合:**
適切なコマンドを入力して端末セッションを開始します。
たとえば、次のように入力して Solaris コンソール上で端末セッションを開始できます。

```
$tip -9600 /dev/ttya
```
 - **Windows が動作しているクライアントの場合:**
適切なプログラムを開いて、端末セッションを開始します。
たとえば、次のように選択して Windows コンソール上で端末セッションを開始できます。
「スタート」 -> 「すべてのプログラム」 -> 「アクセサリ」 -> 「通信」 -> 「ハイパーターミナル」

■ Linux が動作しているクライアントの場合:

適切なコマンドを入力して端末セッションを開始します。

たとえば、Minicom を起動して、Linux コンソール上で端末セッションを開始できます。

Minicom は、Linux ディストリビューションに含まれるテキストベースのシリアル通信プログラムです。詳細は、Linux ディストリビューションに含まれるマニュアルページを参照してください。

3. サービスプロセッサに管理者としてログインします。

次に例を示します。

ログイン: **root**

パスワード: **changeme**

4. 次のコマンドを入力して、シリアルコンソールを起動します。

start /SP/console

5. X2250 サーバーを再起動します。

次に例を示します。

reset /SYS

リセットすることを確認するプロンプト (/SYS (y/n)?) が表示されます。

6. 「**y**」(はい) と入力して操作をリセットし、Enter キーを押します。

メッセージ「Performing hard reset on /SYS (/SYS でハードリセットを実行しています)」に続いてシステムプロンプト -> が表示されます。

7. システムプロンプト (->) で次のコマンドを指定し、ILOM CLI コンソールを起動します。

start /SP/console

ILOM CLI コンソールを起動することを確認するメッセージが表示されます。

8. 「**y**」(はい) と入力し、Enter キーを押して、ILOM CLI コンソールの起動操作を続行します。

サーバーがリブートされ、BIOS 画面が表示されます。

GRUB ブートローダーメニューが表示されます。

シリアル端末からインストールを実行する詳細は、『Solaris 10 5/08 インストールガイド (ネットワークインストール)』(<http://docs.sun.com/app/docs/doc/820-4556>) を参照してください。

システムデバイスドライバのインストール (Solaris インストール後)

Solaris 10 ソフトウェアを X2250 サーバーにインストールしたら、AST2000 VGA ドライバをインストールする必要があります。

前提条件

- Sun Fire X2250 サーバーのツールとドライバの CD または Sun Fire X2250 ツールとドライバの CD ISO イメージ。

注 – Sun Fire X2250 サーバーのツールとドライバの CD は、別途注文の Documentation and Media Kit (ドキュメントとメディアキット) に付属しています。必要に応じて、次の Web サイトからツールとドライバの CD の ISO イメージをダウンロードすることもできます。

<http://www.sun.com/servers/x64/X2250/downloads.jsp>

- インストール環境を確立します。詳細は、「サポートされているコンソールオプション」(4 ページ) および「サポートされているインストールメディアオプション」(6 ページ) を参照してください。

注 – このインストール方法では、ローカルまたはリモート CD/DVD ドライブを使用するときに、サーバー出力をローカルコンソールまたは Sun ILOM リモートコンソールに送ります。デバイスを Sun ILOM リモートコンソールにリダイレクトする方法の詳細は、[付録 A](#) を参照してください。

▼ ローカルまたはリモートメディアからシステムデバイスドライバをインストールする

1. 次のいずれかの手順を実行します。
 - 配布 CD/DVD の場合。X2250 ツールとドライバの CD をローカルまたはリモート CD/DVD-ROM ドライブに挿入します。
 - お客様が用意する ISO イメージの場合。Sun ILOM リモートコンソールの「Device (デバイス)」メニューで、「CD-ROM Image (CD-ROM イメージ)」イメージを選択し、用意した ISO イメージの場所を指定します。

2. 次のコマンドを入力して、/cdrom/cdrom0/drivers/sx86 ディレクトリへ移動します。

```
# cd /cdrom/cdrom0/drivers/sx86
```

3. 次のコマンドを入力して、インストールスクリプトを実行します。

```
# sh install.sh
```

以上で、システムデバイスドライバがインストールされました。インストールが完了すると、変更を有効にするためにシステムをリブートするよう求めるプロンプトが表示されます。

4. X2250 サーバーをリブートします。

Linux インストール

この章では、次のオペレーティングシステムをインストールする手順について説明します。

- Red Hat Enterprise Linux v.4 Update 6 以降、x86 (32 ビット版および 64 ビット版) 用 (RHEL4-U6)
- Red Hat Enterprise Linux v.5 Update 1 以降、x86 (64 ビット版) 用 (RHEL5-U1)
- SUSE Linux Enterprise Server 10 SP1 以降、x86 (32 ビット版および 64 ビット版) 用 (SLES10SP1)

注 – X2250 サーバーに Linux オペレーティングシステムをインストールするときには、Sun Installation Assistant (SIA) を使用することもできます。SIA には、デバイスドライバが用意されており、必要に応じてこれらが自動的にインストールされます。SIA を使用してオペレーティングシステムをインストールする手順の詳細は、『*Sun Installation Assistant for Windows and Linux User's Guide* (Windows および Linux 用 Sun Installation Assistant ユーザーズガイド)』(820-3357) を参照してください。

この章は、次のセクションで構成されています。

- 「インストール要件」(22 ページ)
- 「実行する作業のチェックリスト」(24 ページ)
- 「ローカルまたはリモートメディアを使用した RHEL4 または RHEL5 のインストール」(25 ページ)
- 「PXE ネットワーク環境を使用した RHEL4 または RHEL5 のインストール」(35 ページ)
- 「ローカルまたはリモートメディアを使用した SLES10 のインストール」(39 ページ)
- 「PXE ネットワーク環境を使用した SLES10 のインストール」(45 ページ)

インストール要件

Linux のインストールを開始する前に、次の要件が満たされていることを確認する必要があります。

- 適切なフォーマットの Linux ディストリビューションファイル。Linux をインストールする方法によっては、Linux ディストリビューション CD/DVD、ISO イメージ、または KickStart イメージをすぐに利用できる状態にしておく必要があります。
- サポートされている最低限度の Linux オペレーティングシステム。X2250 サーバーでサポートされている、最低限度の Linux オペレーティングシステムは次のとおりです。
 - Red Hat Enterprise Linux v.4 Update 6 以降、x86 (32 ビット版および 64 ビット版) 用 (RHEL4-U6)
 - Red Hat Enterprise Linux v.5 Update 1 以降、x86 (64 ビット版) 用 (RHEL5-U1)
 - SUSE Linux Enterprise Server 10 SP1 以降、x86 (32 ビット版および 64 ビット版) 用 (SLES10SP1)
- インストールへのコンソールアクセスが確立されている。インストールの入出力を表示する、サポートされているコンソールオプションを選択しておく必要があります。詳細は、「[サポートされているコンソールオプション](#)」(4 ページ) を参照してください。
- BIOS セットアップユーティリティで起動デバイスが正しく設定されている。BIOS で設定されている固定起動デバイスがインストール起動デバイスとは異なる場合は、Linux OS のインストール中に F8 キーを押して一時的に別の起動デバイスを選択できます。
- Linux OS のインストールに必要な情報を収集する。システムがネットワークに接続されていない場合は、インストール先システムのホスト名、およびシステムで使用する予定の言語と地域を知っておく必要があります。

システムがネットワークに接続されている場合は、チェックリストを使用して次の情報を収集します。

- インストール先システムのホスト名
- システムで使用する予定の言語と地域
- サーバーの IP アドレス
- サブネットマスク
- ネームサービスの種類 (DNS、NIS、NIS+ など)
- ゲートウェイの IP アドレス
- ドメインネーム
- ネームサーバーのホスト名
- ネームサーバーの IP アドレス
- ルートパスワード

- **Linux 関連ドキュメント。**この章では、Linux インストールプログラムをブートする手順を紹介します。その他の詳細については、次の表に示す Linux ベンダーのドキュメントを参照してください。

Linux ドキュメント	説明
<p data-bbox="172 343 382 388">SUSE Linux Enterprise Server ドキュメント</p> <p data-bbox="172 409 372 454">http://www.novell.com</p>	<ul style="list-style-type: none"> • README ファイル。最新の情報が記載されています。SUSE Documentation CD に収録されています。 • 『SUSE Linux Enterprise Server Installation Manual (SUSE Linux Enterprise Server インストールマニュアル)』。インストール要件、ディスクのパーティション作成、YaST2 のインストール、およびその他の設定オプションに関する情報が記載されています。 • 『SUSE Linux Enterprise Server Administration Manual (SUSE Linux Enterprise Server 管理マニュアル)』。システムの設定作業、およびシステムと既存のネットワークサービスとの統合作業に関する追加情報が記載されています。 • SUSE Linux Enterprise Server サポートサイト。Novell は、自社の製品およびサポート Web サイトで Enterprise Server オペレーティングシステムに関する数多くの技術情報を提供しています。その他のサポート情報については、SUSE Linux Enterprise Server のホームページ (http://www.novell.com/products/linuxenterpriseserver) を参照してください。
<p data-bbox="172 798 382 843">Red Hat のドキュメント</p> <p data-bbox="172 864 372 909">http://www.redhat.com/docs</p>	<ul style="list-style-type: none"> • README ファイル。最新の情報が記載されています。Red Hat ディストリビューションメディアに収録されています。 • 『RedHat Enterprise Linux Quick Installation Guide (RedHat Enterprise Linux クイックインストールガイド)』。RedHat Enterprise Linux のインストールに役立つ重要な情報が用意されています。 • 『Red Hat Enterprise Linux インストールガイド』。Red Hat Enterprise Linux インストールプロセスに関する詳細情報が記載されています。 • 『RedHat Enterprise Linux システム管理入門ガイド』。RedHat Enterprise Linux ソフトウェアをカスタマイズするための情報が記載されています。 • 『System Administration for Diskless Booting (ディスクレスブートのシステム管理)』。サーバーと RedHat Linux をディスクレスでブートするための設定情報が記載されています。

- 『Sun Fire X2250 サーバーご使用にあたって』をよく読む。Linux インストールに関する最新の情報については、『ご使用にあたって』をよくお読みください。

実行する作業のチェックリスト

次の作業は、記載された順に行う必要があります。すべての作業が必須というわけではありません。

表 3-1 Linux インストールのチェックリスト

手順	必須または省略可	作業
1	必須	インストール環境を確立します。詳細は、次を参照してください。 <ul style="list-style-type: none">• 「サポートされているコンソールオプション」(4 ページ)• 「サポートされているインストールメディアオプション」(6 ページ)
2	省略可	BIOS セットアップユーティリティで最適なデフォルト設定値を設定します。詳細は、「新規インストールの BIOS 設定」(79 ページ)を参照してください。
3	必須	Sun Fire X2250 ツールとドライバの CD を用意するか、次のサイトから Linux の必須デバイスドライバをダウンロードします。 http://www.sun.com/servers/x64/X2250/downloads.jsp
4	必須	Linux インストールメディアをブートして、オペレーティングシステムのインストールを開始します。詳細は、次を参照してください。 <ul style="list-style-type: none">• 「ローカルまたはリモートメディアを使用した RHEL4 または RHEL5 のインストール」(25 ページ)• 「PXE ネットワーク環境を使用した RHEL4 または RHEL5 のインストール」(35 ページ)• 「ローカルまたはリモートメディアを使用した SLES10 のインストール」(39 ページ)• 「PXE ネットワーク環境を使用した SLES10 のインストール」(45 ページ)
5	必須	Linux のインストールに必要なシステムデバイスドライバをインストールします。詳細は、「システムデバイスドライバのインストール (Linux のインストール後)」(47 ページ)を参照してください。

ローカルまたはリモートメディアを使用した RHEL4 または RHEL5 のインストール

このセクションでは、Linux ディストリビューション CD/DVD または ISO CD イメージから Red Hat Enterprise Linux v.4 Update 6 または Red Hat Enterprise Linux v.5 Update 1 をインストールする方法について説明します。

注 – Sun が提供する RHEL4 CD を使用している場合は、インストールの完了後すぐに RHEL4 オペレーティングシステムを Update 6 にアップグレードする必要があります。

前提条件

RHEL をインストールする前に、次の要件が満たされていることを確認する必要があります。

- インストール環境を確立します。詳細は、「[サポートされているコンソールオプション](#)」(4 ページ)、「[サポートされているインストールメディアオプション](#)」(6 ページ)、または「[サポートされているインストールターゲット](#)」(8 ページ)を参照してください。

ローカルまたはリモートメディアから Red Hat Enterprise Linux をインストールするには、次の手順に従います。

- 「[ローカルまたはリモートメディアを使用して RHEL4-U6 をインストールする](#)」(26 ページ)
- 「[ローカルまたはリモートメディアを使用して RHEL5-U1 をインストールする](#)」(30 ページ)

PXE ネットワーク環境から Red Hat Enterprise Linux をインストールする手順の詳細は、「[PXE ネットワーク環境を使用した RHEL4 または RHEL5 のインストール](#)」(35 ページ)を参照してください。

▼ ローカルまたはリモートメディアを使用して RHEL4-U6 をインストールする

1. 次のいずれかの操作を行って、インストールメディアを準備します。

- ディストリビューション CD/DVD の場合。X2250 サーバーまたは ILOM リモートコンソールアプリケーションをホストしているシステムの CD/DVD ドライブに Red Hat 4.0 ディストリビューションメディアブートディスク (CD 1 または DVD) を挿入します。

Sun ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用してインストールする場合は、Sun ILOM リモートコンソールアプリケーションの「Device (デバイス)」メニューで「CD-ROM」オプションが選択されていることを確認します。

- ISO イメージの場合。ISO が使用可能であり、ILOM リモートコンソールアプリケーションでブートディスクイメージ (CD 1 または DVD) が選択されていることを確認します (「Device (デバイス)」メニュー -> 「CD-ROM Image (CD-ROM イメージ)」)。

Sun ILOM リモートコンソールでストレージデバイスをリダイレクトする方法の詳細は、[付録 A](#) を参照してください。

2. X2250 サーバーをリセットします。たとえば、次のリセット方法があります。

- ILOM Web インタフェースの「Remote Power Control (リモート電源制御)」タブで「Reset (リセット)」を選択します。

または

- サーバーの前面パネルの電源ボタンを (約 1 秒間) 押してサーバーをオフにし、もう一度電源ボタンを押してオンにします。

BIOS 画面が表示されます。

注 - 次の手順の動作は、瞬間的に発生するため、注意が必要です。これらのメッセージは画面上に短時間しか表示されないため、画面を注意深く見る必要があります。画面のサイズを大きくして、スクロールバーが表示されないようにすることをお勧めします。

サーバーで電源投入シーケンスが開始されると、一連のテストを経て BIOS、ストレージ、ネットワークコントローラ、およびブート選択を設定する機会があります。

ヒント - デフォルトのブート順では、ディスクやネットワークデバイスの前に CD/DVD (外部または仮想) が表示されます。ブート順の最初に CD/DVD デバイスが指定されていない場合は、F8 キーを押して CD/DVD デバイスを最初の起動デバイスとして指定する必要があります。

数秒後に、Red Hat インストールのスプラッシュ画面が表示されます。スプラッシュ画面の下半分には、手順、ファンクションキー、およびブートプロンプトが表示されます。



3. Red Hat Enterprise Linux のスプラッシュ画面で、Enter キーを押して通常の対話式インストールを続行します。
4. 「Testing CD Media (CD メディアのテスト)」画面で Tab キーを押し、「Skip (スキップ)」を選択して Enter キーを押します。

注 – インストールの初期セットアップで問題が発生した場合は、「OK」を選択してインストール CD メディアをテストする必要がある場合があります。



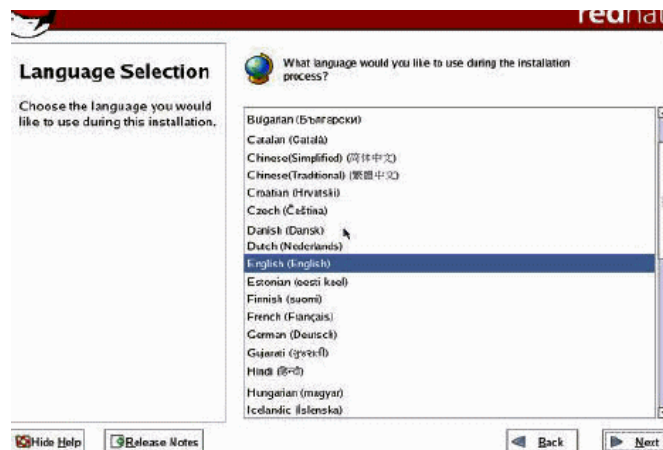
Anaconda (Red Hat Enterprise Linux システムインストーラ) を実行していることを示すメッセージが表示されます。数秒後、「Welcome (ようこそ)」メッセージを示す Red Hat のスプラッシュ画面が表示されます。

5. Red Hat の「Welcome (ようこそ)」画面で、「Next (次へ)」を押してインストールを続行します。



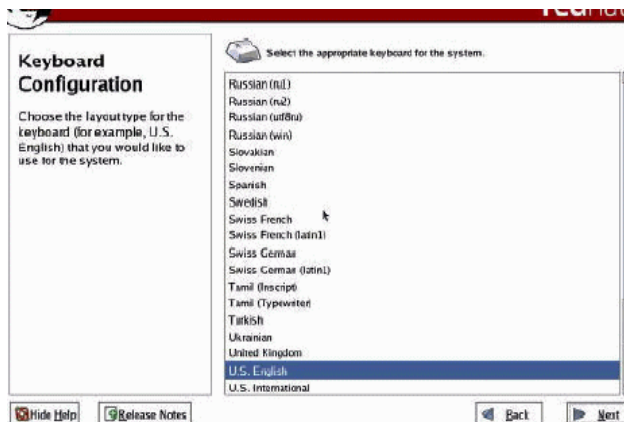
「Language (言語)」画面が表示されます。

6. 「Language (言語)」画面で適切な言語を選択し、「Next (次へ)」をクリックします。

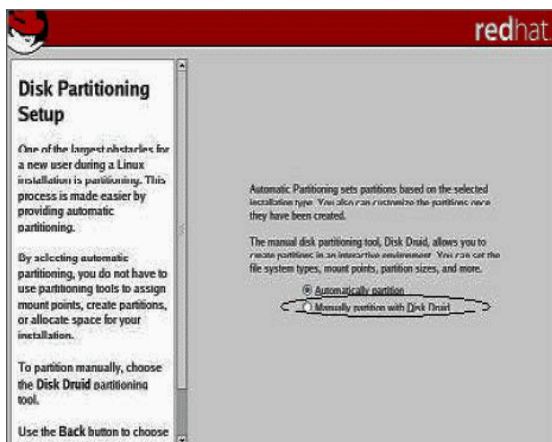


「Keyboard Configuration (キーボードの設定)」画面が表示されます。

7. 「Keyboard Configuration (キーボードの設定)」画面で適切なキーボード設定を選択し、「Next (次へ)」をクリックします。



8. 「Disk Partitioning Setup (ディスクパーティションのセットアップ)」画面が表示されたら、次の手順に従います。
- a. 「Manual Disk Partitioning (手動ディスクパーティション)」ラジオボタンを選択します。



- b. Red Hat ディスクパーティション画面に表示される手順に従って、必要に応じてディスクをパーティションに分割します。

注 – Solaris OS がディスクにプリインストールされている場合は、ディスクをパーティションに分割して Solaris を削除するか、Solaris を維持してディスクをパーティションに分割し、デュアルブートオペレーティングシステムをサポートすることもできます。

9. 基本的な Red Hat インストールのセットアップを続けます。
10. 基本的な Red Hat インストールのセットアップを完了したら、次のインストール後の作業を行います。
 - a. 自動更新用にシステムを設定します。
詳細は、Red Hat のドキュメントを参照してください。
 - b. 必要に応じて、RHEL4-U6 の最新のエラッタおよびバグ修正をダウンロードし、インストールします。
詳細は、Red Hat のドキュメントを参照してください。

▼ ローカルまたはリモートメディアを使用して RHEL5-U1 をインストールする

1. 次のいずれかの手順を実行します。
 - ディストリビューション CD/DVD の場合。X2250 サーバーまたは ILOM リモートコンソールアプリケーションをホストしているシステムの CD/DVD ドライブに Red Hat ディストリビューションメディアブートディスク (CD 1 または DVD) を挿入します。
Sun ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用してインストールする場合は、Sun ILOM リモートコンソールアプリケーションの「Device (デバイス)」メニューで「CD-ROM」オプションが選択されていることを確認します。
 - ISO イメージの場合。ISO が使用可能であり、ILOM リモートコンソールアプリケーションでブートディスクイメージ (CD 1 または DVD) が選択されていることを確認します (「Device (デバイス)」メニュー -> 「CD-ROM Image (CD-ROM イメージ)」)。
Sun ILOM リモートコンソールでストレージデバイスをリダイレクトする方法の詳細は、[付録 A](#) を参照してください。
2. X2250 サーバーをリセットします。たとえば、次のリセット方法があります。
 - ILOM Web インタフェースの「Remote Power Control (リモート電源制御)」タブで「Reset (リセット)」を選択します。
または
 - サーバーの前面パネルの電源ボタンを (約 1 秒間) 押してサーバーをオフにし、もう一度電源ボタンを押してオンにします。

BIOS 画面が表示されます。

注 – 次の手順の動作は、瞬間的に発生するため、注意が必要です。これらのメッセージは画面上に短時間しか表示されないため、画面を注意深く見る必要があります。画面のサイズを大きくして、スクロールバーが表示されないようにすることをお勧めします。

サーバーで電源投入シーケンスが開始されると、一連のテストを経て BIOS、ストレージ、ネットワークコントローラ、およびブート選択を設定する機会があります。

ヒント – デフォルトのブート順では、ディスクやネットワークデバイスの前に CD/DVD (外部または仮想) が表示されます。ブート順の最初に CD/DVD デバイスが指定されていない場合は、F8 キーを押して CD/DVD デバイスを最初の起動デバイスとして指定する必要があります。

数秒後に、RHEL5-U1 インストールのsplash画面が表示されます。splash画面の下半分には、手順、ファンクションキー、およびブートプロンプトが表示されます。



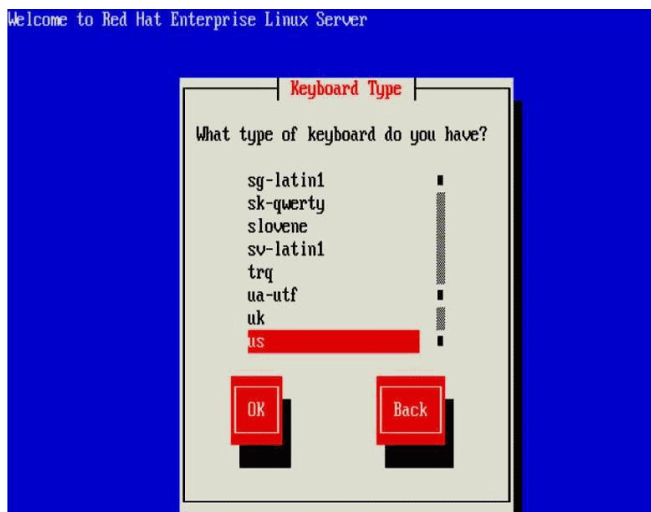
3. Red Hat Enterprise Linux のsplash画面で、Enter キーを押して通常の対話式インストールを続行します。

4. 「Language (言語)」画面で適切な言語を選択し、「OK」をクリックします。



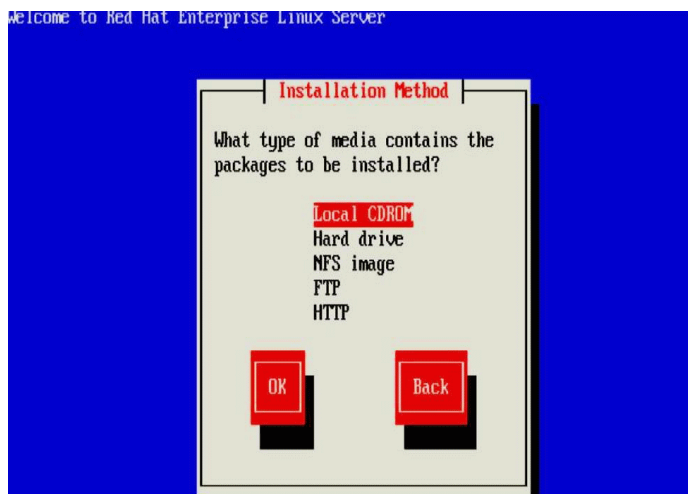
「Keyboard Type (キーボードタイプ)」画面が表示されます。

5. 「Keyboard Type (キーボードタイプ)」画面で適切なキーボード設定を選択し、「OK」をクリックします。



「Installation Method (インストール方法)」画面が表示されます。

6. 「Installation Method (インストール方法)」画面で適切なインストール方法 (「Local CDROM (ローカル CDROM)」または「NFS Image (NFS イメージ)」) を選択し、「OK」をクリックします。



「CD Found (CD を検出しました)」画面が表示されます。

7. 「CD Found (CD を検出しました)」画面で、「Skip (スキップ)」をクリックします。



「Red Hat Enterprise Linux 5」画面が表示されます。

8. 「Red Hat Enterprise Linux 5」画面で、「Next (次へ)」をクリックします。



「Installation Number (インストール番号)」ダイアログが表示されます。

9. 「Installation Number (インストール番号)」ダイアログで、インストール番号を入力するか、「Skip entering installation number (インストール番号入力の省略)」をクリックし、「OK」をクリックします。



「Default Disk Partition (デフォルトのディスクパーティション)」画面が表示されます。

10. 「Default Disk Partition (デフォルトのディスクパーティション)」画面で、次のいずれかの操作を行います。
 - a. ドロップダウンリストボックスで、「create custom (カスタムの作成)」オプションを選択します。
 - b. Red Hat ディスクパーティション画面に表示される手順に従って、必要に応じてディスクをパーティションに分割します。

注 – Solaris OS がディスクにプリインストールされている場合は、ディスクをパーティションに分割して Solaris を削除するか、Solaris を維持してディスクをパーティションに分割し、デュアルブートオペレーティングシステムをサポートすることもできます。

11. 基本的な Red Hat インストールのセットアップを続けます。
12. 基本的な Red Hat インストールのセットアップを完了したら、次のインストール後の作業を行います。
 - a. 自動更新用にシステムを設定します。
詳細は、Red Hat のドキュメントを参照してください。
 - b. 必要に応じて、RHEL5-U1 の最新のエラッタおよびバグ修正をダウンロードし、インストールします。
詳細は、Red Hat のドキュメントを参照してください。

PXE ネットワーク環境を使用した RHEL4 または RHEL5 のインストール

このセクションでは、お客様が用意した KickStart イメージを使用して、確立された PXE ベースのネットワーク環境から Red Hat Enterprise Linux v.4 Update 3 以降のソフトウェアをインストールする方法について説明します。

KickStart は、Red Hat の自動化インストール方法です。この方法では、システム管理者は一般的な Red Hat Linux インストールで通常入力する必要のある、一部またはすべてのインストールおよび設定パラメータの設定値を含む単一のイメージを作成できます。一般に、KickStart イメージは 1 つのネットワークサーバー上に配置され、インストール時に複数のシステムにより読み取られます。

次の手順では、ネットワークを介して RHEL をインストールするときに実行する必要がある初期の手順を示します。

注 – Sun が提供している RHEL4 CD を使用して RHEL4 をインストールしている場合は、インストールの完了後すぐに RHEL4 オペレーティングシステムを Update 6 以降にアップグレードする必要があります。

前提条件

- KickStart ファイルは、RHEL4-U6 以降または RHEL5-U1 オペレーティングシステムを使用して設定する必要があります。

ヒント – KickStart インストール環境を正しく設定および展開する方法は、本書の範囲に含まれていません。KickStart 環境の設定には、KickStart イメージの作成、KickStart イメージを含むブートディスクの作成、または共有ネットワークロケーションへの KickStart イメージの配置、インストールツリーの有効化などの作業が必要です。詳細は、Red Hat の KickStart ドキュメントを参照してください。

注 – 次の手順では、お客様が用意した、すべての Red Hat Enterprise Linux v.4 Update 6 (以降) OS ファイルを含む KickStart イメージを使用することを前提としています。

▼ PXE を使用して RHEL4-U6 または RHEL5-U1 をインストールする

1. X2250 サーバーをリセットします。たとえば、次のリセット方法があります。
 - ILOM Web インタフェースの「Remote Power Control (リモート電源制御)」タブで「Reset (リセット)」を選択します。
または
 - サーバーの前面パネルの電源ボタンを (約 1 秒間) 押してサーバーをオフにし、もう一度電源ボタンを (約 1 秒間) 押してオンにします。
BIOS 画面が表示されます。

注 – 次の手順の動作は、瞬間的に発生するため、注意が必要です。これらのメッセージは画面上に短時間しか表示されないため、画面を注意深く見る必要があります。画面のサイズを大きくして、スクロールバーが表示されないようにすることをお勧めします。

2. F12 キーを押して、ネットワークからブートします。

適切な Ethernet ポートを選択してネットワークブートを実行するように求めるメッセージが表示されます。

3. このメッセージで、表示されている 2 つの Ethernet ポートのいずれかを選択して、Enter キーを押します。

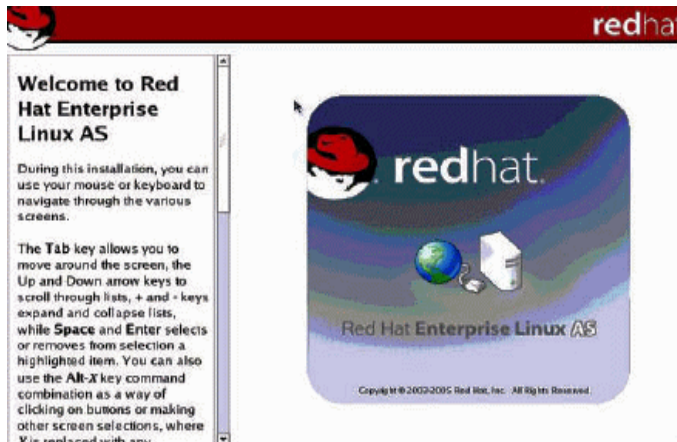
数秒後に、Red Hat インストールのスプラッシュ画面が表示されます。スプラッシュ画面の下半分には、手順、ファンクションキー、およびブートプロンプトが表示されます。



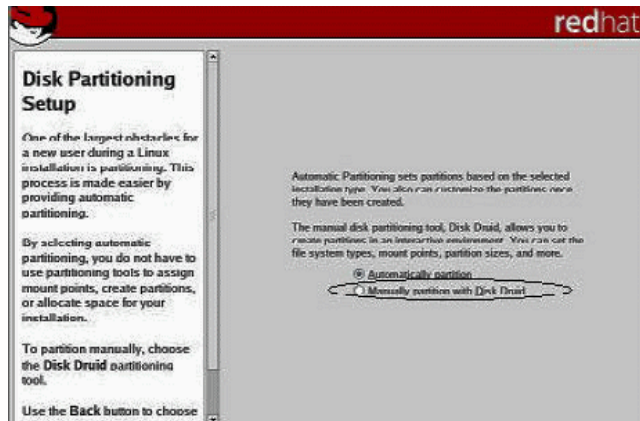
4. ブート プロンプトで、Enter キーを押してインストールプロセスを開始します。

Red Hat インストールプログラムが初期化され、この間一連のメッセージが表示されます。20~40 秒後に、Anaconda (Red Hat Enterprise Linux システムインストーラ) を実行していることを示すメッセージが表示されます。数秒後、「Welcome (ようこそ)」メッセージを示す Red Hat のスプラッシュ画面が表示されます。

5. Red Hat の「Welcome (ようこそ)」画面で、「Next (次へ)」を押してインストールを続行します。



6. 「Disk Partitioning (ディスクパーティション)」画面が表示されたら、次の手順に従います。
- a. 「Manual Disk Partitioning (手動ディスクパーティション)」オプションを選択します。



- b. 必要に応じて、ディスクをパーティションに分割します。
詳細は、Red Hat ディスクパーティション画面に表示される手順を参照してください。

注 – Solaris OS がディスクにプリインストールされている場合は、ディスクをパーティションに分割して Solaris を削除するか、Solaris を維持してディスクをパーティションに分割し、デュアルブートオペレーティングシステムをサポートすることもできます。

7. 基本的な Red Hat インストールのセットアップを続けます。
8. 基本的な Red Hat インストールのセットアップを完了したら、Red Hat のインストールに関するドキュメントを参照して、次に示すインストール後の作業を行います。
 - a. 自動更新用にシステムを設定します。
 - b. 必要に応じて、RHEL4-U6 の最新のエラッタおよびバグ修正が自動的にダウンロードおよびインストールされるよう設定します。

ローカルまたはリモートメディアを使用した SLES10 のインストール

このセクションでは、Linux ディストリビューション CD/DVD または ISO CD イメージから SUSE Linux Enterprise Server 10 (SLES10) Service Pack 1 以降のソフトウェアをインストールする手順について説明します。

SUSE Linux Enterprise Server のインストールプログラムには、オペレーティングシステムをインストールおよび設定するために、使いやすいグラフィカルインターフェースが用意されています。ディストリビューション CD/DVD を使用して SUSE をインストールする手順は、ローカル CD/DVD ドライブを使用する場合も、KVMs を介して接続されたりリモート CD/DVD ドライブを使用する場合も、基本的に同じです。

前提条件

SLES10 をインストールする前に、次の要件が満たされていることを確認する必要があります。

- インストール環境を確立します。詳細は、「[サポートされているコンソールオプション](#)」(4 ページ)、「[サポートされているインストールメディアオプション](#)」(6 ページ)、または「[サポートされているインストールターゲット](#)」(8 ページ)を参照してください。

▼ ローカルまたはリモートメディアを使用して SLES10 をインストールする

1. 次のいずれかの操作を行って、インストールメディアを準備します。

- ディストリビューション CD/DVD の場合。X2250 サーバーまたは ILOM リモートコンソールアプリケーションをホストしているシステムの CD/DVD ドライブに SLES10 ブートディスク (CD 1 または DVD) を挿入します。

Sun ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用してインストールする場合は、Sun ILOM リモートコンソールアプリケーションの「Device (デバイス)」メニューで「CD-ROM」オプションが選択されていることを確認します。

- ISO CD イメージの場合。ISO が使用可能であり、ILOM リモートコンソールアプリケーションでブートディスクイメージ (CD 1 または DVD) が選択されていることを確認します (「Device (デバイス)」メニュー -> 「CD-ROM Image (CD-ROM イメージ)」)。

Sun ILOM リモートコンソールでストレージデバイスをリダイレクトする方法の詳細は、[付録 A](#) を参照してください。

2. X2250 サーバーをリセットします。たとえば、次のリセット方法があります。

- ILOM Web インタフェースの「Remote Power Control (リモート電源制御)」タブで「Reset (リセット)」を選択します。

または

- サーバーの前面パネルの電源ボタンを (約 1 秒間) 押してサーバーをオフにし、もう一度電源ボタンを押してオンにします。

BIOS 画面が表示されます。

注 - 次の手順の動作は、瞬間的に発生するため、注意が必要です。これらのメッセージは画面上に短時間しか表示されないため、画面を注意深く見る必要があります。画面のサイズを大きくして、スクロールバーが表示されないようにすることをお勧めします。

サーバーで電源投入シーケンスが開始されると、一連のテストを経て BIOS、ストレージ、ネットワークコントローラ、およびブート選択を設定する機会があります。

注 - デフォルトのブート順では、ディスクやネットワークデバイスの前に CD/DVD (外部または仮想) が表示されます。ブート順の最初に CD/DVD デバイスが指定されていない場合は、F8 キーを押して CD/DVD デバイスを最初の起動デバイスとして指定する必要があります。

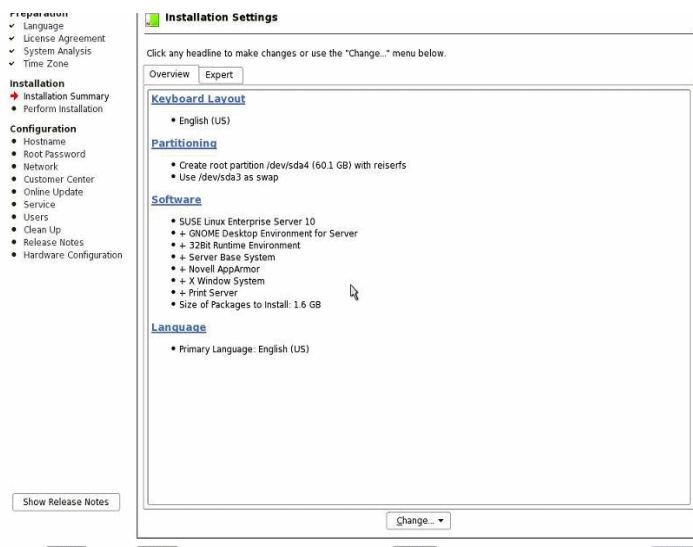
数秒後、SUSE 初期ブート画面が表示されます。

- 初期 SUSE ブートインストール画面で、Tab キーを使用して 2 番目のオプションの「Installation (インストール)」を選択し、Enter キーを押します。
このオプションにより、通常の対話式インストールプロセスが続行されます。
「Language (言語)」画面が表示されます。
- 「Language (言語)」画面で適切な言語オプションを選択し、「Next (次へ)」をクリックします。

注 – 「Language (言語)」画面が表示されるまでに数分かかる場合があります。

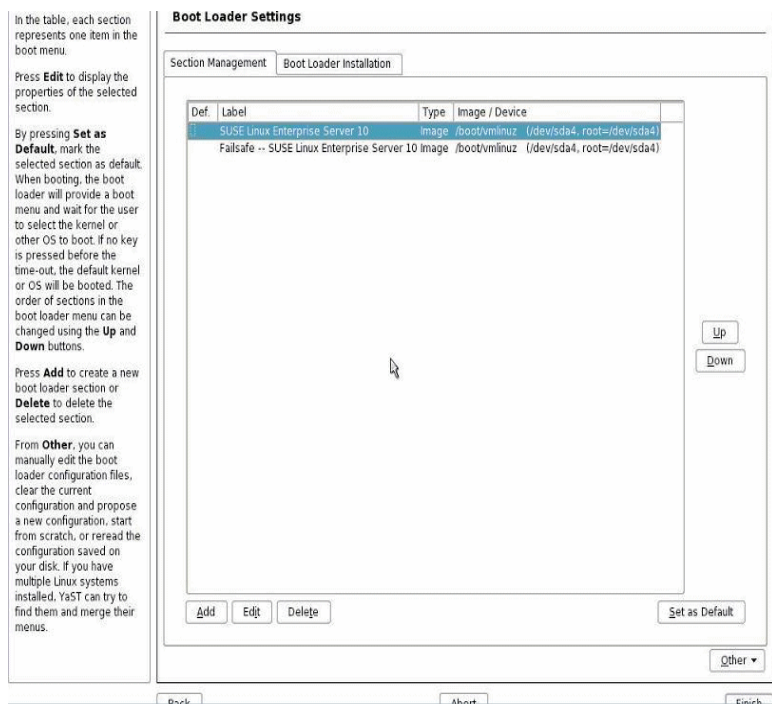
「License Agreement (使用許諾契約書)」画面が表示されます。

- 「License Agreement (使用許諾契約書)」画面で、「Yes I agree (同意する)」を選択し、「Next (次へ)」をクリックします。
「Installation Mode (インストールモード)」画面が表示されます。
- 「Installation Mode (インストールモード)」画面で、「New Installation (新規インストール)」を選択し、「Next (次へ)」をクリックします。
「Clock and Time Zone (時間とタイムゾーン)」画面が表示されます。
- 「Clock and Time Zone (時間とタイムゾーン)」画面で、適切な時間とタイムゾーンの設定を選択し、「Next (次へ)」をクリックします。
「Installation Settings (インストールの設定)」画面が表示されます。
- 「Installation Settings (インストールの設定)」画面で、「Expert (エキスパート)」タブをクリックします。



9. 「Installation Settings (インストールの設定)」画面の「Expert (エキスパート)」タブで、次の操作を行います。

- a. 「Partitioning (パーティション)」オプションをクリックします。
- b. 「Booting (ブート)」オプションをクリックします。
「Boot Loader Settings (ブートローダーの設定)」画面が表示されます。



10. 「Boot Loader Settings (ブートローダーの設定)」画面で、「Boot Loader Installation (ブートローダーのインストール)」タブをクリックします。

「Boot Loader Installation (ブートローダーのインストール)」タブが表示されます。

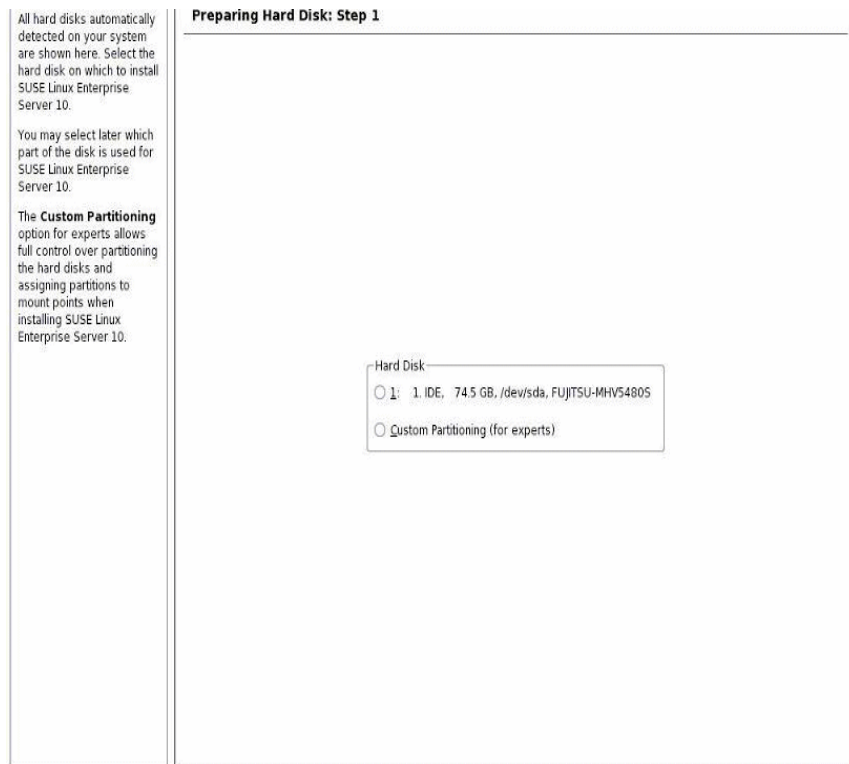
11. 「Boot Loader Installation (ブートローダーのインストール)」タブで、「Boot Loader」と入力し、「Finish (完了)」をクリックします。



注意 - いずれのブートローダーもインストールしないでください。

「Installation Setting (インストールの設定)」画面の「Expert (エキスパート)」タブが表示されます。

12. 「Installation Settings (インストールの設定)」画面の「Expert (エキスパート)」タブで、「Partitioning (パーティション)」オプションをクリックします。
「Suggested Partitioning (推奨されるパーティション)」画面が表示されます。
13. 「Suggested Partitioning (推奨されるパーティション)」画面で、「Create Custom Partition Setup (カスタムパーティションセットアップの作成)」オプションをクリックし、「Next (次へ)」をクリックします。
「Preparing Hard Disk (ハードディスクの準備)」画面が表示されます。
14. 「Preparing Hard Disk (ハードディスクの準備)」画面で、「Custom Partitioning (カスタムパーティション)」オプションをクリックし、「Next (次へ)」をクリックします。



「Expert Partitioner (エキスパートパーティショナ)」画面が表示されます。

15. 「Expert Partitioner (エキスパートパーティショナ)」画面で、必要に応じてドライブをパーティションに分割して、「Finish (完了)」をクリックします。
詳細は、YaST のパーティションに関するドキュメントを参照してください。
「Installation Settings (インストールの設定)」画面の「Expert (エキスパート)」タブが表示されます。

16. 「**Installation Settings (インストールの設定)**」画面の「**Expert (エキスパート)**」タブで、「**Booting (ブート)**」オプションをクリックします。
「**Boot Loader Settings (ブートローダーの設定)**」画面が表示されます。
17. 「**Boot Loader Settings (ブートローダーの設定)**」画面で、次の操作を行います。
 - a. 「**Boot Loader Type (ブートローダーのタイプ)**」ドロップダウンリストボックスで、「**GRUB**」を選択します。
 - b. 「**Boot Loader Location (ブートローダーの場所)**」で、適切な場所を選択するか、指定します。
たとえば、マスターブートレコードの場合、`/dev/sda` と指定します。
 - c. 「**Finish (完了)**」をクリックします。
「**Installation Settings (インストールの設定)**」画面の「**Expert (エキスパート)**」タブが表示されます。
18. 「**Installation Settings (インストールの設定)**」画面の「**Expert (エキスパート)**」タブで、次の操作を行います。
 - a. 適切なソフトウェアオプションを指定します。
 - b. 「**Installation Settings (インストールの設定)**」が適切に設定されていることを確認します。
 - c. 「**Accept (承諾)**」をクリックして、インストールを開始します。
確認ダイアログが表示されます。
 - d. 確認ダイアログで、「**Install (インストール)**」をクリックします。
19. すべての SLES10 OS ファイルがインストールされ、システムがリブートされるまで基本的なインストールセットアップを続けます。
20. 基本的なインストールセットアップを完了したら、YaST のドキュメントを参照して、次に示すインストール後の作業を行います。
 - a. アカウントのパスワードを設定します。
 - b. インターネットアクセスおよびネットワーク設定を設定し、テストします。
 - c. SLES10-SP1 以降の最新のエラッタおよびバグ修正が自動的にダウンロードおよびインストールされるよう設定します。

PXE ネットワーク環境を使用した SLES10 のインストール

このセクションでは、AutoYaST コントロールファイルを使用し、確立されている PXE ベースのネットワーク環境を経由して SLES10 SP 1 以降のソフトウェアをインストールする方法について説明します。

Novell AutoYaST は、ユーザーによる操作を最小限度に抑えて 1 つ以上の SUSE Linux システムを自動的にインストールする方法です。この場合、インストールと設定の両方のデータを含む コントロールファイルを使用して、AutoYaST インストールを実行する必要があります。AutoYaST コントロールファイルの作成方法と YaST インストールへの適用方法の詳細は、Novell のドキュメントを参照してください (<http://www.novell.com>)。

次の手順では、AutoYaST コントロールファイルを使用して、ネットワークを介して SUSE Linux をインストールするときに実行する必要がある初期の手順を示します。

前提条件

SLES10 PXE をインストールする前に、次の要件が満たされていることを確認する必要があります。

- AutoYaST ネットワークインストール環境を確立します。AutoYaST ネットワークインストール環境を正しく設定および展開する方法は、本書の範囲に含まれていません。AutoYaST ネットワークインストールのセットアップと設定については、Novell AutoYaST のインストールに関するドキュメントを参照してください。

▼ AutoYaST を使用して SLES10 をインストールする

1. X2250 サーバーをリセットします。たとえば、次のリセット方法があります。
 - ILOM Web インタフェースの「Remote Power Control (リモート電源制御)」タブで「Reset (リセット)」を選択します。
または
 - サーバーの前面パネルの電源ボタンを (約 1 秒間) 押してサーバーをオフにし、もう一度電源ボタンを押してオンにします。
BIOS 画面が表示されます。

注 – 次の手順の動作は、瞬間的に発生するため、注意が必要です。これらのメッセージは画面上に短時間しか表示されないため、画面を注意深く見る必要があります。画面のサイズを大きくして、スクロールバーが表示されないようにすることを勧めます。

2. **F12** キーを押して、ネットワークからブートします。
ネットワークブートローダーがロードされ、ブートプロンプトが表示されます。5秒経過するまで待機すると、インストールカーネルのロードが開始されます。
数秒後、SLES インストールプログラムがロードされます。
「SUSE Linux Novell License Agreement (SUSE Linux Novell 使用許諾契約書)」画面が表示されます。
3. 「**SUSE Linux Novell License Agreement (SUSE Linux Novell 使用許諾契約書)**」画面で、「Accept (同意する)」をクリックします。
SUSE YaST インストールプログラムが初期化されます。YaST のグラフィック形式のインストール画面が表示されます。
AutoYaST ファイルの設定によっては、「YaST Language Selection (YaST 言語選択)」画面が表示されることがあります。
4. 「**YaST Language Selection (YaST 言語選択)**」画面が表示された場合は、使用する言語を選択します。
AutoYaST ファイルの設定によっては、「YaST Installation Mode (YaST インストールモード)」画面が表示されることがあります。
5. 「**YaST Installation Mode (YaST インストールモード)**」画面が表示された場合は、「New Installation (新規インストール)」を選択し、「OK」をクリックして続行します。
システムのハードウェアが検出されます。「YaST Installation Settings (YaST インストールの設定)」画面が表示されます。
6. 「**YaST Installation Settings (YaST インストールの設定)**」画面で、次の操作を行います。
 - a. 「Partitioning (パーティション)」オプションをクリックします。
 - b. 「Create Custom Partition (カスタムパーティションの作成)」を選択し、「OK」をクリックします。
 - c. 必要に応じて、ディスクをパーティションに分割します。
詳細は、YaST パーティションの手順を参照してください。

注 – Solaris OS がディスクにプリインストールされている場合は、ディスクをパーティションに分割して Solaris を削除するか、Solaris を維持してディスクをパーティションに分割し、デュアルブートオペレーティングシステムをサポートすることもできます。

7. すべての SLES OS ファイルがインストールされ、システムがリブートされるまで基本的なインストールセットアップを続けます。
8. 基本的なインストールセットアップを完了したら、YaST のドキュメントを参照して、次に示すインストール後の作業を行います。
 - a. アカウントのパスワードを設定します。
 - b. インターネットアクセスおよびネットワーク設定を設定し、テストします。
 - c. OS を登録し、オペレーティングシステムで使用可能な更新をダウンロードします。

システムデバイスドライバのインストール (Linux のインストール後)

Linux ソフトウェアを X2250 サーバーにインストールしたら、AST2000 VGA ドライバをインストールする必要があります。

前提条件

- Sun Fire X2250 サーバーのツールとドライバの CD または Sun Fire X2250 ツールとドライバの CD ISO イメージ

注 – Sun Fire X2250 サーバーのツールとドライバの CD は、別途注文の Documentation and Media Kit (ドキュメントとメディアキット) に付属しています。必要に応じて、次の Web サイトからツールとドライバの CD の ISO イメージをダウンロードすることもできます。

<http://www.sun.com/servers/x64/X2250/downloads.jsp>

- インストール環境を確立します。詳細は、「[サポートされているコンソールオプション](#)」(4 ページ) および「[サポートされているインストールメディアオプション](#)」(6 ページ) を参照してください。

注 – このインストール方法では、ローカルまたはリモート CD/DVD ドライブを使用するときに、サーバー出力をローカルコンソールまたは Sun ILOM リモートコンソールに送ります。デバイスを Sun ILOM リモートコンソールにリダイレクトする方法の詳細は、[付録 A](#) を参照してください。

▼ ローカルまたはリモートメディアからシステムデバイスドライバをインストールする

サーバーに DVD ドライブが内蔵されているか、CD ドライブが接続されている場合は、Sun Fire X2250 サーバーのツールとドライバの CD を使用して直接ドライバをインストールできます。

1. 次のいずれかの操作を行って、インストールメディアを準備します。
 - ディストリビューション CD/DVD の場合。X2250 ツールとドライバの CD をローカルまたはリモート CD/DVD-ROM ドライブに挿入します。
 - お客様が用意する ISO イメージの場合。Sun ILOM リモートコンソールの「Device (デバイス)」メニューで、「CD-ROM Image (CD-ROM イメージ)」イメージを選択し、用意した CD イメージの場所を指定します。

2. Linux オペレーティングシステムによっては、次のいずれかのコマンドを入力して、linux/red_hat または linux/suse ディレクトリに変更します。

```
# cd /cdrom/cdrom0/drivers/linux/red_hat
```

または

```
# cd /cdrom/cdrom0/drivers/linux/suse
```

3. 次のコマンドを入力して、インストールスクリプトを実行します。

```
# sh install.sh
```

以上で、システムデバイスドライバがインストールされました。インストールが完了すると、変更を有効にするためにシステムをリポートするよう求めるプロンプトが表示されます。

4. サーバーをリポートします。

Windows Server 2003 のインストール

この章では、Sun Fire X2250 サーバーに Windows Server 2003 をインストールする手順について説明します。

注 – Sun Fire X2250 サーバーに Windows Server 2003 をインストールするときには、Sun Installation Assistant (SIA) を使用することもできます。SIA には、デバイスドライバが用意されており、必要に応じてこれらが自動的にインストールされます。SIA を使用して Windows Server 2003 オペレーティングシステムをインストールする手順の詳細は、『*Sun Installation Assistant for Windows and Linux User's Guide* (Windows および Linux 用 Sun Installation Assistant ユーザーズガイド)』(820-3357) を参照してください。

この章では、次の項目について説明します。

- 「インストール要件」(50 ページ)
- 「実行する作業のチェックリスト」(51 ページ)
- 「ハードウェア RAID の設定 (省略可)」(52 ページ)
 - 「RAID ドライバをフロッピーディスクにコピーする」(54 ページ)
- 「ローカルまたはリモートメディアを使用した Windows Sever 2003 のインストール」(55 ページ)
 - 「ローカルまたはリモートメディアを使用して Windows Sever 2003 をインストールする」(56 ページ)
 - 「ローカルまたはリモートメディアを使用して必須のシステムドライバをインストールする」(59 ページ)
- 「PXE ネットワーク環境を使用した Windows Server 2003 のインストール」(59 ページ)
 - 「RIS イメージへの Windows システムデバイスドライバの追加」(60 ページ)
 - 「PXE を使用して Windows Server 2003 をインストールする」(61 ページ)

インストール要件

Windows Server のインストールを開始する前に、次の要件が満たされていることを確認する必要があります。

- サポートされているフォーマットの **Windows Server 配布ファイル**。Windows をインストールする方法によっては、Windows Server 配布メディア、ISO CD-ROM イメージ、または RIS イメージをすぐに利用できる状態にしておく必要があります。
- サポートされている**最低限度の Windows Server オペレーティングシステム**。
X2250 サーバーは、次の英語版の Windows Server オペレーティングシステムエディションのみをサポートします。
 - Microsoft Windows Server 2003 Enterprise Edition (R2 with SP2、または SP2) (32 ビットおよび 64 ビット版)
 - Microsoft Windows Server 2003 Standard Edition (R2 with SP2、または SP2) (32 ビットおよび 64 ビット版)
- **ハードウェア RAID**。デフォルトでは、Sun が提供するディスクドライブはハードウェア RAID 設定なしで出荷されています。ディスクドライブの RAID を設定する必要がある場合は、Windows オペレーティングシステムをインストールする前にハードウェア RAID を設定できます。詳細は、「[ハードウェア RAID の設定 \(省略可\)](#)」(52 ページ) を参照してください。
- **インストールへのコンソールアクセスが確立されている**。インストールの入出力を表示する、サポートされているコンソールオプションを選択しておく必要があります。詳細は、「[サポートされているコンソールオプション](#)」(4 ページ) を参照してください。
- **必要なシステムデバイスドライバ**。Sun Fire X2250 サーバーのツールとドライバの CD には、インストールする必要があるシステムデバイスドライバが収録されています。システムデバイスドライバをインストールするときこの CD が必要になります。システムデバイスドライバのインストールについては、この章の後半で説明しています。この CD は、別途注文の Documentation and Media Kit (ドキュメントとメディアキット) に付属しています。または、CD に収録されているインストールドライバスクリプトを次のサイトからダウンロードすることもできます。
<http://www.sun.com/servers/x64/X2250/downloads.jsp>
- 『**Sun Fire X2250 サーバーご使用にあたって**』。Windows Server 2003 インストールに関する最新の情報については、『Sun Fire X2250 サーバーご使用にあたって』をよくお読みください。
- **Microsoft の Windows Server 2003 のインストールに関するドキュメント**。この章では、Windows Server 2003 インストールプログラムのブート手順とシステムデバイスドライバのインストール手順を紹介します。オペレーティングシステムのインストール時には、Microsoft Windows Server 2003 のドキュメントも参照してください。

実行する作業のチェックリスト

次の作業は、記載された順に行う必要があります。すべての作業が必須というわけではありません。

表 4-1 Windows インストールのチェックリスト

手順	必須または省略可	作業
1	必須	インストール環境を確立します。詳細は、次を参照してください。 <ul style="list-style-type: none">• 「サポートされているコンソールオプション」(4 ページ)• 「サポートされているインストールメディアオプション」(6 ページ)
2	省略可	BIOS ユーティリティで最適なデフォルト設定値を設定します。詳細は、「新規インストールの BIOS 設定」(79 ページ)を参照してください。
3	必須	Sun Fire X2250 ツールとドライバの CD を用意するか、次のサイトから Windows 2003 の必須デバイスドライバをダウンロードします。 http://www.sun.com/servers/x64/X2250/downloads.jsp
4	省略可	BIOS セットアップユーティリティを使用してハードウェア RAID を実装します。詳細は、次を参照してください。 <ul style="list-style-type: none">• 「BIOS で IDE RAID コントローラを設定する」(52 ページ)• 「RAID ドライバをフロッピーディスクにコピーする」(54 ページ)
5	必須	Windows Server 2003 インストールメディアをブートして、オペレーティングシステムのインストールを開始します。詳細は、次のいずれかのセクションを参照してください。 <ul style="list-style-type: none">• 「ローカルまたはリモートメディアを使用した Windows Sever 2003 のインストール」(55 ページ) または <ul style="list-style-type: none">• 「PXE ネットワーク環境を使用した Windows Server 2003 のインストール」(59 ページ)
6	必須	Windows Server 2003 インストール用の必須のシステムデバイスドライバをインストールします。詳細は、次のいずれかのセクションを参照してください。 <ul style="list-style-type: none">• 「ローカルまたはリモートメディアを使用して必須のシステムドライバをインストールする」(59 ページ) または <ul style="list-style-type: none">• 「RIS イメージにドライバを追加する」(61 ページ)

ハードウェア RAID の設定 (省略可)

X2250 サーバー用に Sun が提供するハードディスクドライブはハードウェア RAID 設定なしで出荷されています。RAID 設定が必要な場合は、(1) BIOS セットアップユーティリティで IDE RAID コントローラを設定し、(2) RAID ドライブフロッピーディスクを作成し、(3) Windows Server 2003 インストール中に RAID ドライバをシステムメモリ内にロードする必要があります。

ハードウェア RAID の要件

- 「[BIOS で IDE RAID コントローラを設定する](#)」の手順に従って、Windows Server 2003 インストール用にハードウェア RAID を設定します。
- BIOS セットアップユーティリティでハードウェア RAID の設定を完了したら、インストール用の RAID ドライバを用意する必要があります。詳細は、「[RAID ドライバをフロッピーディスクにコピーする](#)」(54 ページ)を参照してください。
- インストール用の RAID ドライバを用意したら、Windows Server 2003 をインストール中に RAID ドライバをメモリ内にロードする必要があります (F6 キーを使用)。RAID ドライバをロードするタイミングについては、後述の「[ローカルまたはリモートメディアを使用して Windows Sever 2003 をインストールする](#)」(56 ページ)で説明しています。

RIS イメージを使用して Windows Server 2003 をインストールする場合は、RAID ドライバを RIS イメージに追加する必要があります。詳細は、「[RIS イメージにドライバを追加する](#)」(61 ページ)を参照してください。

▼ BIOS で IDE RAID コントローラを設定する

1. サーバーをリブートし、Sun のロゴが表示されたら F2 キーを押します。
「BIOS Utility (BIOS ユーティリティ)」ダイアログが表示されます。
2. 「**BIOS Utility (BIOS ユーティリティ)**」ダイアログで、「Advanced (詳細)」->「IDE Configuration (IDE の設定)」の順に選択します。
「IDE Configuration (IDE の設定)」メニューが表示されます。
3. 「**IDE Configuration (IDE の設定)**」メニューで、「Configure SATA AS (SATA の設定)」を選択し、Enter キーを押します。
SATA のオプション (IDE および RAID) を示すメニューが表示されます。デフォルトでは「IDE」に設定されています。

4. 「SATA Options (SATA のオプション)」メニューで、「RAID」を選択し、Enter キーを押します。
5. F10 キーを押して変更を保存し、BIOS ユーティリティを終了してサーバーをリブートします。
6. サーバーのリブート中に Ctrl-I キーを押して RAID 設定にアクセスします。
「Intel Matrix Storage Manager option ROM」ダイアログが表示されます。
7. 「Intel Matrix Storage Manager option ROM」ダイアログのメインメニューで、「(1) Create RAID Volume (RAID ボリュームの作成)」を選択して、Enter キーを押します。
「Create RAID Volume (RAID ボリュームの作成)」メニューが表示されます。
8. 「Create RAID Volume (RAID ボリュームの作成)」メニューで、次の操作を行います。
 - a. RAID ボリュームの名前を入力して Enter キーを押すか、Enter キーを押してデフォルトの名前を使用します。
 - b. RAID レベルに「RAID 1 (Mirror) (RAID 1 (ミラー))」または「RAID 0 (Stripe) (RAID 0 (ストライプ))」を選択し、Enter キーを押します。
上向きおよび下向き矢印キーを使用して、使用可能な RAID レベル値をスクロールします。
 - c. ボリューム容量を指定して Enter キーを押すか、Enter キーを押してデフォルトのボリューム容量を使用します。
 - d. 「Create Volume (ボリュームの作成)」を選択し、Enter キーを押します。
すべてのデータが失われる可能性があることを示す、「Are you sure you want to create this volume? (このボリュームを作成しますか) Y or N (Y または N)」という警告メッセージが表示されます。
 - e. 警告メッセージで、Y キーを押してボリュームの作成を確認します。
新しい RAID ボリュームが作成されます。RAID ボリュームに関する情報が表示されます (RAID ID、ボリューム名、レベル、ステータスなど)。
9. 「EXIT (終了)」を選択し、Enter キーを押して Intel Matrix Storage Manager ユーティリティを終了します。
Intel Matrix Storage Manager ユーティリティの終了を確認するメッセージが表示されます。
10. 確認メッセージで、Y キーを押して終了を確認します。

▼ RAID ドライバをフロッピーディスクにコピーする

インストール用の RAID ドライバを用意するには、Sun Fire X2250 Systems ツールとドライバの CD からフロッピーディスクに RAID ドライバをコピーする必要があります。

前提条件

- Windows システムに接続された USB フロッピーディスクドライブ
- フォーマットされたフロッピーディスク
- *Sun Fire X2250 サーバーのツールとドライバの CD*

次の手順に従って、Windows Server 2003 のインストール中に必要な RAID ドライバを含むフロッピーディスクを作成します。

1. Windows システムで次の操作を行います。
 - a. Sun Fire X2250 サーバーのツールとドライバの CD を CD/DVD-ROM ドライブに挿入します。
 - b. フォーマット済みフロッピーディスクをシステムに接続されたフロッピードライブに挿入します。
2. Sun Fire X2250 サーバーのツールとドライバの CD で、次のディレクトリを参照します。

`drivers/windows/RAID/Intel-ESP`

3. 次のいずれかのディレクトリの内容をフロッピーディスクの root ディレクトリにコピーします。
 - 2003_32
X2250 サーバーの Windows オペレーティングシステムが 32 ビット版の場合は、2003_32 ディレクトリから RAID ドライバをコピーします。
 - 2003_64
X2250 サーバーの Windows オペレーティングシステムが 64 ビット版の場合は、2003_64 ディレクトリから RAID ドライバをコピーします。

ローカルまたはリモートメディアを使用した Windows Server 2003 のインストール

このセクションでは、Windows Server 2003 インストールメディアをローカルまたはリモートメディアからブートする方法について説明します。

前提条件

Windows Server 2003 をインストールする前に、次の要件が満たされていることを確認する必要があります。

- インストール環境を確立します。詳細は、「[サポートされているコンソールオプション](#)」(4 ページ) および「[サポートされているインストールメディアオプション](#)」(6 ページ) を参照してください。
- BIOS ユーティリティのブート順で、一次起動デバイスとして適切な CD/DVD-ROM デバイス (ローカル、外部、または仮想デバイス) が指定されている必要があります。次に例を示します。
 - ILOM リモートコンソール からインストールを実行するときは、仮想 CD/DVD-ROM デバイスを一時的な起動デバイスとして設定する必要があります。
 - ローカル DVD-ROM ドライブからインストールを実行するときは、ローカル DVD デバイスを一時的な起動デバイスとして設定する必要があります。
 - 外部 CD/DVD-ROM デバイスからインストールを実行するときは、外部 CD/DVD-ROM 起動デバイスを一時的な起動デバイスとして設定する必要があります。

必要に応じて、サーバーの起動段階 (次に示す手順 2 の後) の間に F8 キーを押して、一時的な起動デバイスを設定できます。

- ハードウェア RAID が実装されている場合は、次の作業を行う必要があります。
 - Windows Server 2003 をインストールする前に、「[ハードウェア RAID の設定 \(省略可\)](#)」(52 ページ) の手順に従って作業を行う必要があります。
 - ローカルサーバーまたは Sun ILOM リモートコンソールクライアントをホストしているシステムに接続されているフロッピーディスクドライブに RAID ドライブ用フロッピーディスクを挿入します。

RAID ドライブ用フロッピーディスクを作成する方法の詳細は、「[RAID ドライバをフロッピーディスクにコピーする](#)」(54 ページ) を参照してください。Sun ILOM リモートコンソールでフロッピーストレージデバイスのリダイレクトを設定する方法の詳細は、[付録 A](#)を参照してください。

- CD/DVD ドライブが一次起動デバイスとして指定されるように BIOS ユーティリティで一時的にブート順を変更します。RAID ドライバをインストールしたら、Windows Server 2003 インストールメディアまたは ISO イメージの CD が挿入された CD/DVD-ROM ドライブの場所をポイントするようにブート順を変更する必要があります。

▼ ローカルまたはリモートメディアを使用して Windows Server 2003 をインストールする

1. 次のいずれかの操作を行って、インストールメディアを準備します。

- 配布 CD/DVD の場合。Windows Server 2003 配布メディアを X2250 サーバーのローカル CD/DVD ドライブまたは Sun ILOM リモートコンソールアプリケーションをホストしているクライアント上の仮想 CD/DVD ドライブに挿入します。

Sun ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用してインストールする場合は、Sun ILOM リモートコンソールアプリケーションの「Device (デバイス)」メニューで「CD-ROM」オプションが選択されていることを確認します。

- ISO イメージの場合。ネットワーク上の共有されている場所または ILOM リモートコンソールをホストしているシステム上で Windows 配布ファイルが格納されている ISO CD イメージを利用できることを確認します (「Device (デバイス)」メニュー -> 「CD-ROM Image (CD-ROM イメージ)」)。

Sun ILOM リモートコンソールでストレージデバイスをリダイレクトする方法の詳細は、[付録 A](#) を参照してください。

2. X2250 サーバーをリセットします。たとえば、次のリセット方法があります。

- ILOM Web インタフェースの「Remote Power Control (リモート電源制御)」タブで「Reset (リセット)」を選択します。

または

- サーバーの前面パネルの電源ボタンを (約 1 秒間) 押してサーバーをオフにし、もう一度電源ボタンを押してオンにします。

BIOS のスプラッシュ画面が表示されます。

注 - 次の手順の動作は、瞬間的に発生するため、注意が必要です。これらのメッセージは画面上に短時間しか表示されないため、画面を注意深く見る必要があります。画面のサイズを大きくして、スクロールバーが表示されないようにすることをお勧めします。

サーバーで電源投入シーケンスが開始されると、一連のテストを経て BIOS ブート順およびストレージコントローラを設定する機会があります。

ヒント - BIOS ユーティリティのデフォルトのブート順では、適切な CD/DVD (ローカル、外部、または仮想デバイス) デバイスがハードディスクやネットワークデバイスよりも前に指定されている必要があります。ブート順で適切な CD/DVD 起動デバイス (ローカル、外部、または仮想デバイス) が指定されていない場合は、F8 キーを押して適切な CD/DVD デバイス (ローカル、外部、または仮想デバイス) を一次起動デバイスとして指定する必要があります。

3. 「Press any key to boot CD (CD をブートするには、任意のキーを押します)」というメッセージが表示されたら、任意のキーを押して CD をブートします。

Windows のテキストモードセットアッププログラムが開始され、青色の Windows セットアップ画面が表示されます。

F6 キーを押してサードパーティドライバをインストールするように求めるメッセージが表示されます。

4. (省略可 - サードパーティドライバ)

必要に応じて、F6 キーを押して RAID ドライバをロードし、次の手順に従います。

- a. Windows セットアップ画面で、S キーを押してインストールするデバイスドライバを手動で指定します。

Windows セットアップ画面に使用可能なドライバが表示されます。

- b. 使用可能なドライバが示されている Windows セットアップ画面で、次の必須 RAID ドライバをメモリにロードする必要があります。

- Intel ESB2 SATA RAID コントローラ (Server ESB2)

- c. Enter キーを押してドライバをメモリにロードします。

Windows の「Welcome to Setup (セットアップへようこそ)」画面が表示されます。

5. Windows の「Welcome to Setup (セットアップへようこそ)」画面で、Enter キーを押して Windows をセットアップします。



Windows Server の高速またはカスタムセットアップの選択画面が表示されます。

6. 通常の Windows インストールを続行します。

詳細は、Microsoft の Windows Server 2003 のドキュメントを参照してください。

注 – BIOS で「Remote Access Configuration (リモートアクセスの設定)」オプションが有効になっている場合、Windows Server ファイルをサーバーのハードディスクにコピーした後、「An EMS Connection has been detected on your system (システムで EMS 接続を検出しました)」というメッセージが表示されます。「Remote Access Configuration (リモートアクセスの設定)」オプションを有効にすると、システムで Microsoft の Emergency Management Services (EMS) および Special Administration Console (SAC) (シリアル接続を介した帯域外コンソールの I/O サポート) をサポートできます。EMS の詳細は、Microsoft TechNet Web サイトを参照してください (BIOS で「Remote Access Configuration (リモートアクセスの設定)」オプションを無効にしている場合、このメッセージは表示されません)。

7. Windows のインストールが完了したら、Windows Server 2003 の必須システムデバイスドライバをインストールする必要があります。

詳細は、次の「[必須の Windows システムデバイスドライバのインストール \(Windows インストール後\)](#)」(58 ページ) を参照してください。

必須の Windows システムデバイスドライバのインストール (Windows インストール後)

X2250 サーバーに Windows Server 2003 ソフトウェアをインストールした後、次に示す必須の Windows システムデバイスドライバを指定された順にインストールする必要があります。

1. Intel チップセット
2. Ethernet ドライバ
3. AST2000 VGA ドライバ
4. Trusted Platform Module (TPM) セキュリティドライバ

前提条件

- 挿入の自動通知機能を有効します (Windows 2003 ではデフォルトで有効に設定されています)。
- Sun Fire X2250 Server サーバーのツールとドライバの CD。Windows Server 2003 の必須のシステムドライバは、次のサイトからダウンロードすることもできます。

<http://www.sun.com/servers/x64/X2250/downloads.jsp>

▼ ローカルまたはリモートメディアを使用して必須のシステムドライバをインストールする

次の手順では、必須の Windows システムドライバを Sun Fire X2250 サーバーのツールとドライバの CD から X2250 サーバーにインストールする方法について説明します。

1. *Sun Fire X2250 サーバーのツールとドライバの CD を X2250 サーバーのローカル CD/DVD ドライブ、または Sun ILOM リモートコンソールアプリケーションをホストしているクライアントの仮想 CD/DVD ドライブに挿入します。*
Sun ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用してインストールする場合は、Sun ILOM リモートコンソールアプリケーションの「Device (デバイス)」メニューで「CD-ROM」オプションが選択されていることを確認します。
Sun ILOM リモートコンソールでストレージデバイスをリダイレクトする方法の詳細は、[付録 A](#) を参照してください。
Sun Fire X2250 ツールとドライバの CD で利用可能なメニューオプションの一覧が表示されます。
2. 「Sun Fire X2250 Tools and Drivers (Sun Fire X2250 ツールとドライバ)」メニューで、「Install and Update System Device Drivers システムデバイスドライバのインストールと更新」を選択します。
Windows Server 2003 で必要なシステムデバイスドライバが X2250 サーバーに自動的にインストールされます。

PXE ネットワーク環境を使用した Windows Server 2003 のインストール

このセクションでは、お客様が用意した Windows 2003 Remote Installation Services (RIS) イメージを使用して、確立された PXE ベースのネットワークを経由して Windows Server 2003 をインストールする方法について説明します。

このセクションで説明する手順は、RIS イメージを使用してネットワーク経由で Windows Server 2003 をインストールするときに実行する必要がある初期の手順です。このセクションでは、特に次の点について説明します。

- 必須の Windows システムデバイスドライバを RIS イメージに追加するときのガイドライン。
- Windows Server 2003 をネットワークサービスブート経由で RIS イメージからインストールする手順。

このセクションでは、RIS イメージの作成方法や RIS ネットワーク環境の設定と展開の方法については説明しません。RIS ネットワーク環境を正しく設定および展開する方法は、本書の範囲に含まれていません。詳細は、Windows Remote Installation Services の展開と使用についての Microsoft のドキュメントを参照してください。

前提条件

RIS イメージから Windows Server 2003 をインストールする前に、次の要件が満たされていることを確認する必要があります。

- PXE ネットワークインストールサーバーは、X2250 サーバーと同じネットワーク上で設定される必要があります。
- お客様が用意する Windows Server 2003 RIS イメージ、および RIS 管理者パスワード。

RIS イメージの作成方法の詳細は、Sun Fire X2250 サーバーのツールとドライバの CD の `drivers/windows/IntelNIC/RIS` ディレクトリに保存されている `README.TXT` ファイルを参照してください。

- Windows Server 2003 の PXE インストールを実行する前に、必須の Windows システムデバイスドライバを RIS イメージに追加する必要があります。詳細は、「[RIS イメージへの Windows システムデバイスドライバの追加](#)」(60 ページ)を参照してください。

RIS イメージへの Windows システムデバイスドライバの追加

次の手順に従って、Window システムデバイスドライバを RIS イメージに追加します。

前提条件

- RIS イメージに組み込む必要がある X2250 サーバードライバは次のとおりです。
 - Intel チップセット
 - Ethernet ドライバ
 - AST2000 VGA ドライバ
 - Trusted Platform Module (TPM) セキュリティドライバ
 - Intel ESB2 SATA RAID コントローラ (Server ESB2)

注 – Intel-ESB2 SATA RAID コントローラドライバは、ハードウェア RAID を実装している場合のみ必要です。ハードウェア RAID を設定する詳細は、「[ハードウェア RAID の設定 \(省略可\)](#)」(52 ページ)を参照してください。

- 必須の 32 ビットまたは 64 ビット版 Windows Server 2003 システムデバイスドライバを Sun Fire X2250 サーバーのツールとドライバの CD (`drivers/windows/IntelNIC/RIS`) から取得します。

▼ RIS イメージにドライバを追加する

1. RIS_Image (RIS サーバーの Windows イメージのルート) に次のディレクトリを作成します。

```
$OEM$\textmode  
$OEM$\$1\Sun\Drivers
```

2. ドライバを Sun Fire X2250 ツールとドライバの CD から追加します。詳細は、Sun Fire X2250 ツールとドライバの CD の Readme ファイルを参照してください。
3. 次の手順に従って、プラットフォーム固有のドライバで RIS_イメージ を更新します。
 - 32 ビット版の場合は、ディレクトリ構造を維持して、DriverPack¥32-bit フォルダの内容を RIS_Image¥\$OEM\$\\$1\Sun\Drivers フォルダにコピーします。
 - 64 ビット版の場合は、ディレクトリ構造を維持して、DriverPack¥64-bit フォルダの内容を RIS_Image¥\$OEM\$\\$1\Sun\drivers フォルダにコピーします。

ドライバを RIS イメージに追加する手順の詳細は、Sun Fire X2250 ツールとドライバの CD の RIS ディレクトリにある Readme ファイルを参照してください。

▼ PXE を使用して Windows Server 2003 をインストールする

1. X2250 サーバーをリセットします。たとえば、次のリセット方法があります。
 - ILOM Web インタフェースの「Remote Power Control (リモート電源制御)」タブで「Reset (リセット)」を選択します。
または
 - サーバーの前面パネルの電源ボタンを (約 1 秒間) 押してサーバーをオフにし、もう一度電源ボタンを押してオンにします。BIOS 画面が表示されます。

注 – 次の手順の動作は、瞬間的に発生するため、注意が必要です。これらのメッセージは画面上に短時間しか表示されないため、画面を注意深く見る必要があります。画面のサイズを大きくして、スクロールバーが表示されないようにすることを勧めます。

2. 「**Boot Agent (ブートエージェント)**」画面で、ネットワーク サービスブートの **F12** キーを押します。

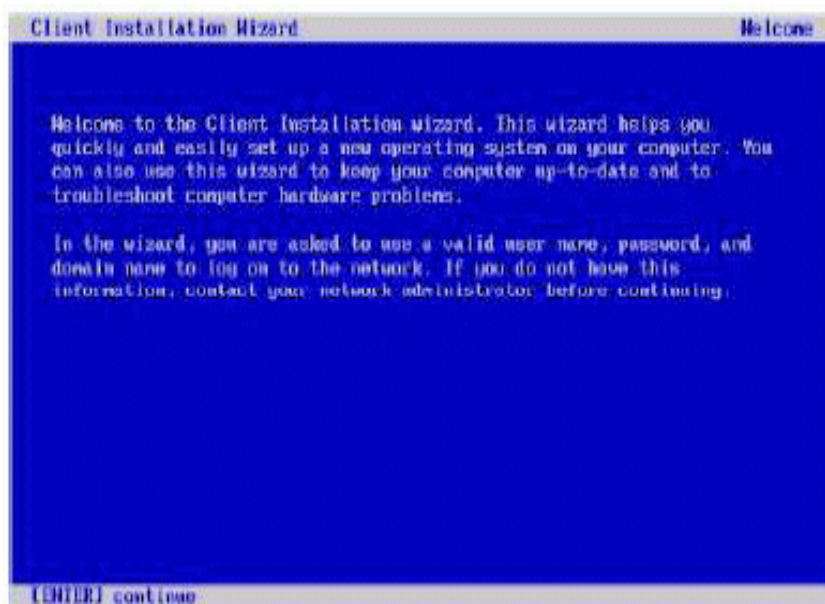
```
Intel(R) Boot Agent GE v1.2.31
Copyright (C) 1997-2005, Intel Corporation

CLIENT MAC ADDR: 08 00 20 16 CE 08  GUID: 00020003 0004 0005 0006 000700080009
CLIENT IP: 192.168.1.102  MASK: 255.255.255.0  DHCP IP: 192.168.1.1

Press F12 for network service boot
```

「Welcome to Client Installation wizard (クライアントインストールウィザードへようこそ)」画面が表示されます。

3. 「**Welcome to Client Installation wizard (クライアントインストールウィザードへようこそ)**」画面で、**Enter** キーを押して続行します。



4. 次の画面では、ユーザー名、パスワード、およびドメイン名の入力を求められます。
5. ユーザー名とパスワードの画面で、ユーザー名とパスワードを指定し、Enter キーを押します。
フィールド間を移動するには Tab キーを使用します。



Windows Server 2003 バージョン画面が表示されます。

6. Windows Server 2003 バージョン画面で、インストールするバージョン (32 ビットまたは 64 ビット) を選択し、Enter キーを押します。



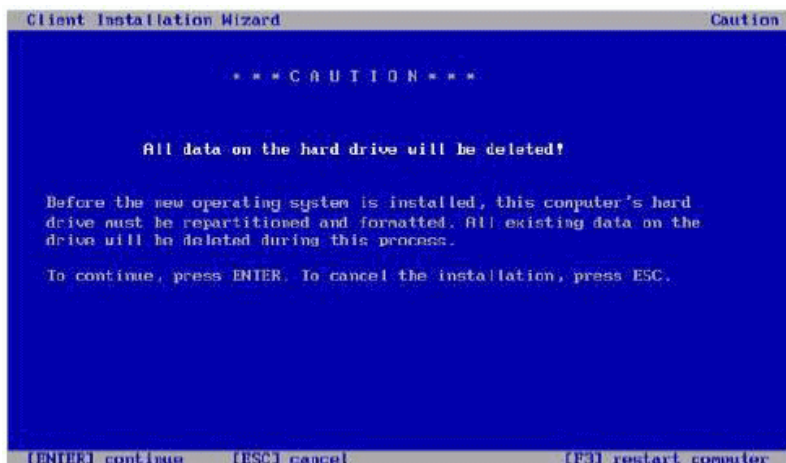
Windows Server 2003 オペレーティングシステムの選択画面が表示されます。

7. OS 選択画面で、インストールする OS を選択して Enter キーを押します。

注 - OS 選択画面で、RIS サーバーからインストールで使用可能な OS イメージの名前を確認します。

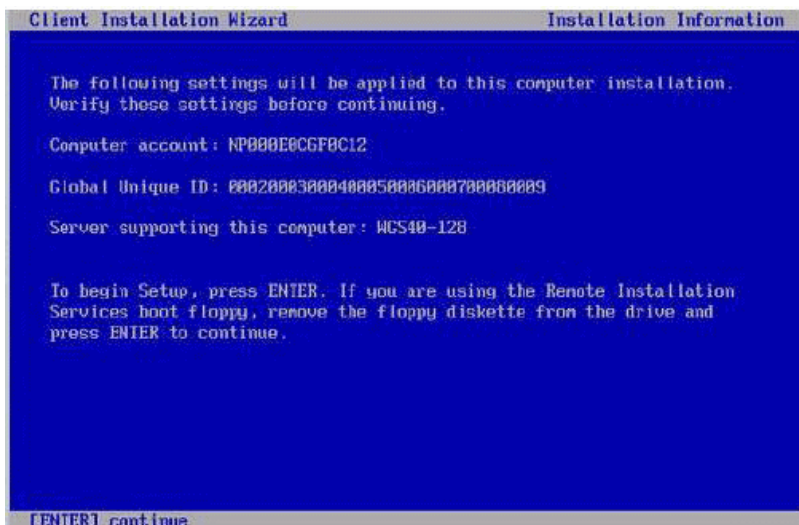
「Caution (注意)」画面が表示されます

8. 「Caution (注意)」画面で、Enter キーを押して続行します。



「Installation Information (インストール情報)」画面が表示されます。

9. 「Installation Information (インストール情報)」画面で、Enter キーを押して続行します。



「Administrator Password (管理者パスワード)」画面が表示されます。

10. 「Administrator Password (管理者パスワード)」画面で、OS の管理者パスワードを指定し、Enter キーを押します。

このパスワードは OS インストールターゲットに割り当てられます。



パスワードの再入力を求められます。

11. 「Administrator Password Confirmation (管理者パスワードの確認)」画面で、パスワードをもう一度入力し、Enter キーを押します。

Windows セットアップが開始され、パーティションをフォーマットしていることを示すメッセージが表示されます。



12. 通常の Windows Server 2003 インストールを続行します。詳細は、Microsoft の Windows Server 2003 のインストールに関するドキュメントを参照してください。

Sun ILOM リモートコンソール

この付録では、Sun ILOM リモートコンソールの機能を紹介し、Sun ILOM リモートコンソールアプリケーションの起動および設定方法について説明します。

詳細は、次のセクションを参照してください。

- 「Sun ILOM リモートコンソールの概要」 (67 ページ)
- 「ILOM の起動とリモート管理のための設定」 (68 ページ)
- 「Sun ILOM リモートコンソールの起動とリモートサーバー管理の設定」 (71 ページ)

Sun ILOM リモートコンソールの概要

Sun ILOM リモートコンソールは、ILOM Web インタフェースから起動できる Java アプリケーションです。Sun ILOM リモートコンソールを使用すると、リモート x64 ホストサーバー上の次のデバイスをリモートでリダイレクトおよび制御できます。

- キーボード
- マウス
- ビデオコンソールディスプレイ
- ストレージデバイスまたはイメージ (CD/DVD、フロッピーデバイス)

Sun ILOM リモートコンソールを使用すると、ローカルクライアント上のデバイスを、遠隔ホストサーバーに直接されているかのように使用することができます。たとえば、遠隔ホストサーバーへのネットワーク接続を使用したこのリダイレクト機能により、次の操作を行うことができます。

- ソフトウェアをローカルメディアドライブから遠隔ホストサーバーにインストールする。
- ローカルクライアントから遠隔ホストサーバー上でコマンドラインユーティリティを実行する。
- ローカルクライアントから遠隔ホストサーバー上の GUI ベースのプログラムにアクセスして実行する。

- ローカルクライアントから x64 プロセッサベースのサーバー機能をリモートで設定する。
- ローカルクライアントから x64 プロセッサベースのサーバーポリシーをリモートで管理する。
- ローカルクライアントから x64 プロセッサベースのサーバーエレメントをリモートで監視する。
- 通常遠隔ホストサーバーで実行できるほとんどすべての x64 プロセッサベースのソフトウェアタスクをローカルクライアントから実行する。

インストール要件

Sun ILOM リモートコンソールでは、追加のハードウェアやソフトウェアをインストールする必要がありません。これらは、ILOM ソフトウェアに組み込まれています。ただし、Sun ILOM リモートコンソールを実行するには、次のソフトウェアをローカルクライアントにインストールする必要があります。

- **Web ブラウザ** – サポートされているブラウザには、Internet Explorer 6.0 以降、Mozilla 1.7.5 以降、Mozilla Fire Fox 1.0 以降があります。
- **JRE 1.5 以上 (Java 5.0 以上)** – Java 1.5 Runtime 環境をダウンロードするには、<http://java.com> を参照してください。

ILOM の起動とリモート管理のための設定

Sun ILOM リモートコンソールを起動する前に、ILOM Web インタフェースを起動し、リモート管理用に ILOM を設定する必要があります。

- **ILOM Web インタフェースへの接続** – リモートで管理するサーバーの ILOM Web インタフェースに接続する必要があります。手順については、「[ILOM Web インタフェースに接続する](#)」(69 ページ) を参照してください。
- **ILOM リモートコントロール設定の指定** – Sun ILOM リモートコンソールを使用して Sun x64 サーバーをリモートで管理する前に、まず ILOM の設定 (コンソールリダイレクト、サポートされるマウスのモード、リモートおよびホストの電源の状態) をリモート管理用に設定する必要があります。詳細は、「[Web インタフェースを使用して ILOM リモートコントロール設定を指定する](#)」(69 ページ) を参照してください。

注 – 通常、ILOM でのリモート管理コントロールの設定は、遠隔ホストの電源状態を除き、1 回だけ行います。

▼ ILOM Web インタフェースに接続する

ILOM Web インタフェースに接続するには、次の手順に従います。

1. Web ブラウザを開き、リモートで管理する x64 サーバー SP の IP アドレスを指定し、Enter キーを押します。
「ILOM Login (ILOM ログイン)」ページが表示されます。
2. 「ILOM Login (ILOM ログイン)」ページで、有効な管理者ロールアカウントのユーザー名とパスワードを入力し、Enter キーを押します。

ヒント – ILOM の事前設定の管理者ロールアカウントは、root/ changeme です。

▼ Web インタフェースを使用して ILOM リモートコントロール設定を指定する

前提条件

- 遠隔ホストサーバー ILOM Web インタフェースへの接続を確立します。手順については、「[ILOM Web インタフェースに接続する](#)」(69 ページ)を参照してください。

ILOM 設定をリモート管理用に指定するには、次の手順に従います。

1. ILOM Web インタフェースで、「Remote Control (リモートコントロール)」タブをクリックします。
「Remote Control (リモートコントロール)」ページが表示されます。このページには、「Redirection (リダイレクト)」、「Mouse Mode Settings (マウスモードの設定)」、および「Remote Power Control (リモート電源制御)」の3つのサブタブがあります。
2. 「Remote Control (リモートコントロール)」ページで、次のリモートコントロール設定を指定します。

<p>コンソールリダイレクトの設定</p>	<p>「Redirection (リダイレクト)」タブをクリックし、次のいずれかのコンソールカラーリダイレクトオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「8-bit (8 ビット)」。低速のネットワーク接続には、8 ビットリダイレクトを選択します。 • 「16-bit (16 ビット)」。高速のネットワーク接続には、16 ビットリダイレクトを選択します。
<p>マウスモードの設定 (SP 専用の設定)</p>	<p>「Mouse Mode Settings (マウスモードの設定)」タブをクリックし、次のいずれかのマウスモード設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「Absolute (絶対)」。Solaris または Windows オペレーティングシステムを使用しているときは、最適なパフォーマンスを得るために「Absolute Mouse Mode (絶対マウスモード)」を選択します。「Absolute (絶対)」はデフォルトの設定です。 • 「Relative (相対)」。Linux オペレーティングシステムを使用しているときは、「Relative Mouse Mode (相対マウスモード)」を選択します。一部の Linux オペレーティングシステムは絶対モードをサポートしていませんので注意してください。
<p>電源状態の設定</p>	<p>「Remote Power Control (リモート電源制御)」タブをクリックし、次のいずれかのホストサーバーの電源状態を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「Immediate Power Off (即時電源オフ)」。遠隔ホストサーバーの電源をただちにオフにするには、「Immediate Power Off (即時電源オフ)」を選択します。 • 「Graceful Shutdown and Power Off (適切な順序でのシャットダウンと電源オフ)」。遠隔ホストサーバーの電源をオフにする前に適切な順序で OS をシャットダウンするには、「Graceful Shutdown and Power Off (適切な順序でのシャットダウンと電源オフ)」を選択します。 • 「Power On (電源オン)」。遠隔ホストサーバーへのフル電源をオンにするには、「Power On (電源オン)」を選択します。「Power On (電源オン)」はデフォルトの設定です。 • 「Power Cycle (電源の再投入)」。遠隔ホストサーバーの電源をただちにオフにして、フル電源を遠隔ホストサーバーに供給するには、「Power Cycle (電源の再投入)」を選択します。 • 「Reset (リセット)」。遠隔ホストサーバーをただちにリポートするには、「Reset (リセット)」を選択します。
<p>PC-Check 診断の設定</p>	<p>「Diagnostics (診断)」タブをクリックして、PC-Check 診断の適切な設定を有効または無効にします。</p>

Sun ILOM リモートコンソールの起動とリモートサーバー管理の設定

X2250 サーバーをリモートで管理するには、Sun ILOM リモートコンソールを起動し、必要に応じてリモート管理用にコンソールを設定する必要があります。詳細は、次の手順を参照してください。

- 「ILOM Web インタフェースを使用して Sun ILOM リモートコンソールを起動する」(71 ページ)
- 「新規サーバーセッションを追加する」(72 ページ)
- 「デバイスリダイレクトを開始、停止、または再開する」(72 ページ)
- 「キーボードおよびマウスデバイスをリダイレクトする」(73 ページ)
- 「キーボードモードとキー送信オプションを制御する」(74 ページ)
- 「ストレージデバイスまたは ISO イメージをリダイレクトする」(75 ページ)
- 「デバイスリダイレクトを開始、停止、または再開する」(72 ページ)
- 「Sun ILOM リモートコンソールを終了する」(76 ページ)

▼ ILOM Web インタフェースを使用して Sun ILOM リモートコンソールを起動する

前提条件

- ILOM Web インタフェースへの接続を確立します。手順については、「ILOM Web インタフェースに接続する」(69 ページ)を参照してください。
- ILOM リモートコントロール設定を指定します。手順については、「Web インタフェースを使用して ILOM リモートコントロール設定を指定する」(69 ページ)を参照してください。

ILOM Web インタフェースを使用して Sun ILOM リモートコンソールを起動するには、次の手順に従います。

1. ILOM Web インタフェースで、「Remote Control (リモートコントロール)」タブをクリックします。
「Remote Console (リモートコンソール)」ページが表示されます。
2. 「Remote Console (リモートコンソール)」ページで、「Redirection (リダイレクト)」タブをクリックします。
「Redirection (リダイレクト)」ページが表示されます。

3. 「**Redirection (リダイレクト)**」 ページで、「**Launch Redirection (リダイレクトの起動)**」をクリックします。

サイトの名前が証明書の名前と一致しないことを伝える証明書警告メッセージが表示される場合があります。このメッセージが表示された場合は、「**Run (実行)**」をクリックして続行します。

「Sun ILOM Remote Console」ウィンドウが表示されます。

▼ 新規サーバーセッションを追加する

前提条件

- Sun ILOM リモートコンソールへの接続を確立します。手順については、「[ILOM Web インタフェースを使用して Sun ILOM リモートコンソールを起動する \(71 ページ\)](#)」を参照してください。

ILOM リモートコンソールに新規サーバーセッションを追加するには、次の手順に従います。

1. 「Sun ILOM Remote Console」ウィンドウで、「**Redirection (リダイレクト)**」 --> 「**New Session (新規セッション)**」の順に選択します。
「New Session Creation (新規セッションの作成)」ダイアログが表示されます。
2. 「**New Session Creation (新規セッションの作成)**」ダイアログで、遠隔ホスト x64 サーバー SP の IP アドレスを入力し、「**OK**」をクリックします。
「Login (ログイン)」ダイアログが表示されます。
3. 「**Login (ログイン)**」ダイアログで、管理者アカウントのユーザー名とパスワードを入力します。
Sun ILOM リモートコンソールのタブ領域に、新規に追加した遠隔ホストサーバーのセッションタブが表示されます。

▼ デバイスリダイレクトを開始、停止、または再開する

前提条件

- Sun ILOM リモートコンソールへの接続を確立します。手順については、「[ILOM Web インタフェースを使用して Sun ILOM リモートコンソールを起動する \(71 ページ\)](#)」を参照してください。

デバイスのリダイレクトを開始、停止、または再開するには、次の手順に従います。

1. 「Sun ILOM Remote Console」ウィンドウで、「**Redirection (リダイレクト)**」メニューをクリックします。
2. 「**Redirection (リダイレクト)**」メニューで、必要に応じて次のいずれかのリダイレクトオプションを指定します。

Start Redirection (リダイレクトの開始)	デバイスのリダイレクトを有効にするには、「Start Redirection (リダイレクトの開始)」を選択します。「Start Redirection (リダイレクトの開始)」はデフォルトで有効になっています。
Restart Redirection (リダイレクトの再開)	デバイスのリダイレクトを停止して開始するには、「Restart Redirection (リダイレクトの再開)」を選択します。一般に、有効なリダイレクトが確立されている場合は、このオプションを使用します。
Stop Redirection (リダイレクトの停止)	デバイスのリダイレクトを無効にするには、「Stop Redirection (リダイレクトの停止)」を選択します。

リダイレクト設定の変更を確認するメッセージが表示されます。

3. 確認メッセージで、続行するには「Yes (はい)」を、操作をキャンセルするには「No (いいえ)」をクリックします。

▼ キーボードおよびマウスデバイスをリダイレクトする

前提条件

- Sun ILOM リモートコンソールへの接続を確立します。手順については、「[ILOM Web インタフェースを使用して Sun ILOM リモートコンソールを起動する](#)」(71 ページ)を参照してください。

遠隔ホストサーバーのキーボードとマウスをローカルクライアントにリダイレクトするには、次の手順に従います。

1. 「Sun ILOM Remote Console」ウィンドウで、次の操作を行います。
 - a. 「Devices (デバイス)」--> 「Mouse (マウス)」の順に選択して、マウスのリダイレクトを有効または無効にします。
デフォルトでは有効 (チェックマークあり) に設定されています。
 - b. 「Devices (デバイス)」--> 「Keyboard (キーボード)」の順に選択して、キーボードのリダイレクトを有効または無効にします。
デフォルトでは有効 (チェックマークあり) に設定されています。

▼ キーボードモードとキー送信オプションを制御する

前提条件

- Sun ILOM リモートコンソールへの接続を確立します。手順については、「[ILOM Web インタフェースを使用して Sun ILOM リモートコンソールを起動する](#)」(71 ページ)を参照してください。

キーボードモードおよび個々のキー送信オプションを制御するには、次の手順に従います。

1. 「Sun ILOM Remote Console」 ウィンドウで、「Keyboard (キーボード)」メニューをクリックします。
2. 「Keyboard (キーボード)」メニューで、必要に応じて次のキーボード設定を指定します。

Auto-keybreak Mode (自動キーブ레이크モード)	「Auto-keybreak Mode (自動キーブ레이크モード)」を選択すると、キーを押すたびにキーブ레이크が自動的に送信されます。このオプションは、低速ネットワーク接続でキーボードに関する問題を解決する場合に役立ちます。 「Auto-keybreak Mode (自動キーブ레이크モード)」はデフォルトで有効になっています。
Stateful Key Locking (ステートフルキーロック)	クライアントがステートフルキーロック (XSun を実行する Solaris、OSX) を使用している場合は、「Stateful Key Locking (ステートフルキーロック)」を選択します。 「Stateful Key Locking (ステートフルキーロック)」は、Caps Lock、Num Lock、および Scroll Lock の 3 つのロックキーに適用されます。
Left Alt Key (左 Alt キー)	左側の Alt キーのオンとオフを切り替えるには、「Left Alt Key (左 Alt キー)」を選択します。
Right Alt Key (右 Alt キー)	英語以外のキーボードで右側の Alt キーのオンとオフを切り替えるには、「Right Alt Key (右 Alt キー)」を選択します。 このオプションが有効になっている場合は、キーの 3 番目のキー文字を入力できます。このキーボードオプションでは、Alt Graph キーと同じ機能を利用できます。
F10	F10 ファンクションキーを適用するには、「F10」を選択します (通常は BIOS で使用)。
Control Alt Delete	Control-Alt-Delete シーケンスを送信するには、「Control Alt Delete」を選択します。
Control Space	Control-Space シーケンスを送信し、遠隔ホストでの入力を有効にするには、「Control Space」を選択します。
Caps Lock	Caps Lock キーを送信し、ロシア語やギリシャ語のキーボードでの入力を有効にするには、「Caps Lock」を選択します。

▼ ストレージデバイスまたは ISO イメージをリダイレクトする

前提条件

- Sun ILOM リモートコンソールへの接続を確立します。手順については、「[ILOM Web インタフェースを使用して Sun ILOM リモートコンソールを起動する](#)」(71 ページ)を参照してください。
- Solaris クライアントシステムの場合、ストレージデバイスをリダイレクトする前に、次の操作を行う必要があります。
 - ボリュームマネージャーが有効な場合は、この機能を無効にする必要があります。
 - 次のコマンドを入力して、Sun ILOM リモートコンソールを実行しているプロセスに root 権限を割り当てます。

```
su to root
ppriv -s +file_dac_read pid_javarconsole
```
- 詳細は、「[CD とフロッピーディスクのリダイレクト処理のシナリオ](#)」(77 ページ)を参照してください。

ストレージデバイスまたは ISO イメージをリダイレクトするには、次の手順に従います。

1. 「Sun ILOM Remote Console」ウィンドウで、「Devices (デバイス)」メニューをクリックします。
2. 「Devices (デバイス)」メニューで、次の操作を行います。
 - a. 適切なストレージデバイスまたはイメージの設定を有効にします。

CD-ROM	ローカル CD デバイスを有効にするには、「CD-ROM」を選択します。このオプションを選択すると、ローカル CD-ROM ドライブが、遠隔ホストサーバーに直接接続されている CD デバイスのように動作します。
Floppy (フロッピー)	ローカルフロッピーデバイスを有効にするには、「Floppy (フロッピー)」を選択します。このオプションを選択すると、ローカルフロッピードライブが、遠隔ホストサーバーに直接接続されているフロッピーデバイスのように動作します。
CD-ROM Image (CD-ROM イメージ)	ローカルクライアントまたはネットワーク共有上の CD-ROM イメージの場所を指定するには、「CD-ROM Image (CD-ROM イメージ)」を選択します。
Floppy Image (フロッピーイメージ)	ローカルクライアントまたはネットワーク共有上のフロッピーイメージの場所を指定するには、「Floppy Image (フロッピーディスクイメージ)」を選択します。

ヒント – CD/DVD のリダイレクトには、2つの選択肢しかありません。CD-ROM ドライブのリダイレクト、または CD-ROM イメージのリダイレクトのいずれかを選択できます。

ヒント – 配布 CD/DVD からソフトウェアをインストールする場合は、リダイレクトされたドライブに CD/DVD を挿入し、CD-ROM ドライブを選択します。

ヒント – ISO イメージからソフトウェアをインストールする場合は、ISO イメージをローカルクライアントまたはネットワーク共有ファイルシステムに配置してから、CD-ROM イメージを選択します。

ストレージドライブの場所またはイメージファイルの場所の指定を求めるダイアログが表示されます。

- b. ストレージドライブの場所またはイメージファイルの場所を指定するには、次のいずれかを行います。
 - 「Drive Selection (ドライブの選択)」ダイアログで、ドライブの場所を選択または入力し、「OK」をクリックします。または
 - 「File Open (ファイルを開く)」ダイアログで、イメージの場所を参照し、「OK」をクリックします。
3. あとでホスト上のこれらのストレージ設定を再利用するには、「Devices (デバイス)」--> 「Save as Host Default (ホストのデフォルトとして保存)」をクリックします。

▼ Sun ILOM リモートコンソールを終了する

Sun ILOM リモートコンソールを終了し、開かれたままになっている可能性のあるリモートサーバーセッションをすべて閉じるには、次の手順に従います。

1. 「Sun ILOM Remote Console」ウィンドウで、「Redirection (リダイレクト)」メニューをクリックします。
2. 「Redirection (リダイレクト)」メニューで、「Quit (終了)」を選択します。

CD とフロッピーディスクのリダイレクト処理のシナリオ

次の情報は、リモートコンソールセッション中に CD ドライブまたはフロッピーディスクドライブのリダイレクト機能が動作する可能性のある、さまざまな事例シナリオの識別に役立ちます。

事例	状態	遠隔ホストから見た DVD	遠隔ホストから見たフロッピーディスク
1	リモートコンソールアプリケーションが起動していない、またはリモートコンソールは起動したが DVD またはフロッピーディスクのリダイレクトが起動していない。	DVD デバイスあり。ホストが問い合わせるたびに、メディアがないことを示すデータが ILOM からホストに送信されます。	フロッピーディスクデバイスあり。ホストが問い合わせるたびに、メディアがないことを示すデータが ILOM からホストに送信されます。
2	ドライブにメディアがない状態で、リモートコンソールアプリケーションが起動した。	DVD デバイスあり。ホストが自動的に、またはホストのデバイスにアクセスする際に問い合わせるたびに、遠隔クライアントは状態メッセージを送付します。この場合、メディアがないため、状態は「メディアなし」になります。	フロッピーディスクデバイスあり。ホストが問い合わせると (たとえば、ドライブをダブルクリックした場合)、遠隔クライアントは状態メッセージを送付します。この場合、メディアがないため、状態は「メディアなし」になります。
3	リモートコンソールアプリケーションがメディアなしで起動し、そのあとにメディアが挿入された。	DVD デバイスあり。ホストが (自動または手動で) 問い合わせると、遠隔クライアントはメディアがあることを示す状態メッセージを送信し、さらにメディアの変更を知らせます。	フロッピーディスクデバイスあり。ホストが (手動で) 問い合わせると、遠隔クライアントはメディアがあることを示す状態メッセージを送信し、さらにメディアの変更を知らせます。
4	リモートコンソールアプリケーションが、メディアが挿入された状態で起動した。	事例 3 と同じ。	事例 3 と同じ。
5	リモートコンソールアプリケーションが、メディアが挿入された状態で起動し、そのあとにメディアが取り出された。	ホストからの次のコマンドに対し、メディアがないことを知らせる状態メッセージが返されます。	ホストからの次のコマンドに対し、メディアがないことを知らせる状態メッセージが返されます。
6	リモートコンソールアプリケーションが、イメージリダイレクトで起動した。	事例 3 と同じ。	事例 3 と同じ。

事例	状態	遠隔ホストから見た DVD	遠隔ホストから見たフロッピーディスク
7	リモートコンソールアプリケーションがイメージで起動したが、リダイレクトが停止された（これは ISO リダイレクトを停止する唯一の方法）。	ドライバは、DVD リダイレクトが停止したことを検知するため、次のホストの問い合わせにメディアがないことを示すデータを送信します。	ドライバは、DVD リダイレクトが停止したことを検知するため、次のフロッピーディスクの問い合わせにメディアがないことを示すデータを送信します。
8	ネットワーク障害。	このソフトウェアにはキープアライブ機構が組み込まれています。通信がないと、キープアライブ障害を検出し、クライアントから反応がないものと想定してソケットを閉じます。ドライバはメディアがないことを示すデータをホストへ送信します。	このソフトウェアにはキープアライブ機構が組み込まれています。反応のないクライアントを検出してソケットを閉じると同時に、遠隔接続が切断されたことをドライバに知らせます。ドライバはメディアがないことを示すデータをホストへ送信します。
9	クライアントがクラッシュする。	事例 8 と同じ。	事例 8 と同じ。

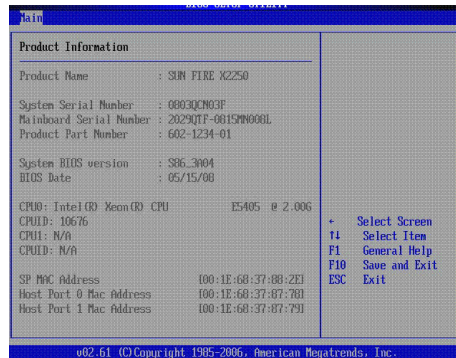
新規インストールの BIOS 設定

新規のインストールの場合は常に、次の BIOS 設定値が正しく設定されていることを確認してから Windows Server ソフトウェアのインストールを開始してください。

- 最適な工場出荷時のデフォルトの設定
- システム時間
- システム日付

▼ 新規インストールの BIOS 設定の確認

1. X2250 サーバーをリセットします。たとえば、次のリセット方法があります。
 - ILOM Web ÉCÉîÉ^ÉtÉFÅ [ÉX の「Remote Power Control (リモート電源制御)」タブで「Reset (リセット)」を選択します。または
 - X2250 サーバーの電源ボタンを押します。
BIOS 画面が表示されます。
2. BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、F2 キーを押して BIOS セットアップユーティリティにアクセスします。
しばらくすると、BIOS セットアップユーティリティ画面が表示されます。



3. 次の手順に従って、最適な工場出荷時のデフォルトの設定が指定されていることを確認します。
 - a. F9 キーを押して、最適な工場出荷時のデフォルトの設定を自動的にロードします。

「OK」を選択してこの操作を続行するか、「CANCEL (キャンセル)」を選択してこの操作をキャンセルするかを確認するメッセージが表示されます。
 - b. 「Load Optimal Defaults (最適なデフォルト値のロード)」メッセージで、「OK」を選択して、デフォルトの設定をロードし、Enter キーを押します。

BIOS セットアップユーティリティ画面が表示されます (システム時間フィールドの最初の値にカーソルが置かれています)。
4. BIOS セットアップユーティリティで、次のキーを使用してシステム時間または日付を編集できます。
 - + (プラス) キー: 表示されている現在の値を増加させます。
 - - (マイナス) キー: 表示されている現在の値を減少させます。
 - ENTER キー: 次の値フィールドにカーソルを移動します。
 - 上向きまたは下向き矢印キー: システム時間と日付の選択を切り替えます。
5. 変更した設定を保存してユーティリティを終了するには、F10 キーを押します。ただし、この手順を ILOM リモートコンソールから実行している場合は、ILOM リモートコンソールで「Keyboard (キーボード)」メニューに移動して F10 を選択します。

注 - ILOM リモートコンソールを使用している場合、F10 キーの操作は OS によりトランプされます。そのため「Keyboard (キーボード)」ドロップダウンメニューの「F10」オプションを使用する必要があります。

「Exit Options (オプションの終了)」メニューが表示されます。

6. 「Exit Options (オプションの終了)」メニューで、「Save Changes and Exit (変更を保存して終了)」を選択し、Enter キーを押します。

索引

B

BIOS

- 最適な工場出荷時のデフォルトの設定 80
- 新規インストールの設定 79
- 設定の確認、手順 79

C

CD-ROM イメージストレージデバイスのリダイレクト 75

CD-ROM ストレージデバイスのリダイレクト 75

I

ILOM

- 起動とリモート管理のための設定 68

L

Linux

- RHEL の PXE ネットワークインストール 35
- RHEL のローカルまたはリモートメディアインストール 25
- SLES の PXE ネットワークインストール 45
- SLES のローカルまたはリモートメディアインストール 39
- インストールチェックリスト 24
- インストール要件 22
- システムデバイスドライバ 47

P

PXE インストール

- Red Hat Enterprise、手順 36
- Windows Server、手順 61

R

RAID (Windows のみ)

- 概要 50
- 設定 52

Red Hat Enterprise Linux

- PXE ネットワークインストール 35
- サポートされている最低限度のエディション 22
- ローカルまたはリモートメディアインストール 25

S

Solaris

- JumpStart ネットワークインストール 13
- インストールチェックリスト 12
- インストール要件 10
- システムデバイスドライバ 18
- シリアル端末 16
- プリインストールされているイメージ → 「Sun Fire X2250 サーバー設置マニュアル」を参照
- ローカルまたはリモートメディアインストール 14

SSH 接続 6

Sun ILOM リモートコンソール 67 to 77

- Web インタフェースへの接続 69
- インストール要件 68
- 概要 67
- 起動と設定 71
- キーボードオプションの制御 74
- サポートされているコンソールオプション 5
- 指定、リモートコントロール設定 69

終了 76

新規サーバーセッションの追加 72

ストレージデバイスのリダイレクト 75

デバイスリダイレクトの開始、停止、再開 72

リダイレクト処理の動作 77

リモートコントロール設定 69

Sun Installation Assistant (SIA) 8

SUSE Linux Enterprise Server

PXE ネットワークインストール 45

サポートされている最低限度のエディション 22

ローカルまたはリモートメディアイン
ストール 39

PXE インストール

SUSE Linux Enterprise Server、手順 45

V

VGA コンソール 5

W

Windows Server

PXE ネットワークインストール 59

RIS イメージへのシステムデバイスドライバの
追加 61

インストールチェックリスト 51

インストール要件 50

サポートされている最低限度のエディション 50

システムデバイスドライバ 58

ローカルまたはリモートメディアイン
ストール 55

あ

インストール方法

サポートされているインストールターゲット 8

サポートされているコンソール 4

サポートされているメディアオプション 6

オペレーティングシステム

インストールの計画 4

サポートされている最低限度のエディション 2

出荷時にインストール済み 3

さ

システムデバイスドライバ

Linux 48

RIS イメージへの追加 60

Solaris 18

Windows Server 59

シリアルコンソール 4

診断テスト 3

た

電源状態の設定

Sun ILOM リモートコンソールの設定 70

ドライバ → 「システムデバイスドライバ」を参照

ま

マウスモードの設定

Sun ILOM リモートコンソールの設定 70

ら

リモート KVMS → 「Sun ILOM リモートコンソ
ール」を参照